

2002年度修士設計

# 土佐山田の商店街と駅空間のデザイン

2002年 1月

指導教員 重山陽一郎助教授

高知工科大学大学院工学研究科基盤工学専攻

社会システム工学コース 1055139

木村 宏

## 目的 / 構成

本設計は、衰退が進んでいる土佐山田町の商店街及び、駅空間の活性化を景観デザインの観点からアプローチしたものである。

商店街の活性化を目指すために、商工会はシャッター美術館や、イベントの開催、商店街に音楽を流すなどの活動を、自治体は土地地区画整理事業や市街地総合再生計画事業等を計画を行っているが、商店街の衰退化の歯止めとはなっていない。そこで、商店街及び駅空間を活性化へとつなげるように設計の提案を行う。

本修士設計は 10 の章で構成されている。

第一章では、目的について述べている。第二章では、商店街及び駅空間の現況を調査し、第三章では土佐山田中心市街地の歴史について述べている。第四章では上位計画・関連計画をまとめている。第五章では、現状の課題についてまとめ第六章では、設計を行うにあたっての基本方針をまとめている。第七章では、それらの基本方針に基づき設計を行ない、第八章では、その設計を実施する場合の費用の積算を行い、最終章でまとめている。

## 設計範囲の現況

土佐山田商店街には古い建物（土佐漆喰や水切り瓦などが利用されている建物）、道路わきを通る水路、昔利用していた井戸などがある。また、他にも核となる場所が存在している。しかし、それらは、看板建築などによって隠されてしまい、まちの歴史というものを粗雑に扱っている。

また、市街地の中心にあり、土佐山田町の顔ともなる土佐山田駅・駅前広場は交通機能の役割しか果たしておらず、人々の交流や賑わいの空間となっていない。



昔ながらの古い建物



公儀の井戸

## 歴史

土佐山田の中心市街地の町並みは、上井川と中井川に挟まれた地域から秦山町付近の新町に移され、さらに東西の交通の便を考えて、現在の中心市街地へと移ってきたと考えられている。

上井川より水を引くための水路が完成することにより、まず西町周辺に定住する人が増えていった。水を引くことの出来ない中町、東町には大井戸を掘ることにより定住する者が増えていき、現在の町並みを形成していった。

## 上位計画・関連計画

関連計画と下記のもの計画されている。

緑の田園都市構想

多自然・定住文化都市構想

なんごく・こうち地方拠点都市地域・基本計画

第 1 次高知中央域ふるさと市町村圏計画

土佐山田町農業振興地域整備計画書

土佐山田町地域防災計画

土佐山田駅北地区土地地区画整理事業

土佐山田駅南地区市街地総合再生計画事業

## 課題の整理

現況の課題として駅前広場に交通機能しかない「玄関口としての装いの不足」、商店の看板や電柱等によって景観を損ねている「駅前通りとしての景観」、長時間の滞留できる場所がなという「拠点施設の欠如」、商店街の魅力を低下する「空き店舗等の存在」、歩行者の回遊性が低い「歩道の未整備」などがある。

## デザインの基本方針

土佐山田町の歴史や、都市計画等の関連計画、現況の課題をふまえて、デザインの基本方針を下記のように設定する。

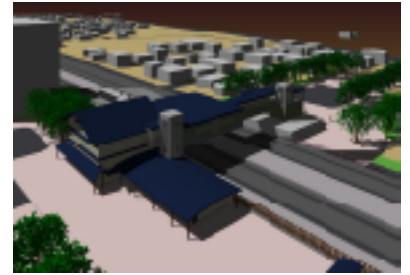
- (1) 景観魅力の再生・創造：伝統や地域文化の感じられる個性的な街となるようにする
- (2) 交通環境の整備：長時間、買い物客が滞留・回遊するような歩行空間の整備を行う
- (3) ゲートエリアとしての整備：駅前が町或いは中心地区の魅力ある玄関口となるよう、気品のある都市イメージ豊かな「顔づくり」を行う。



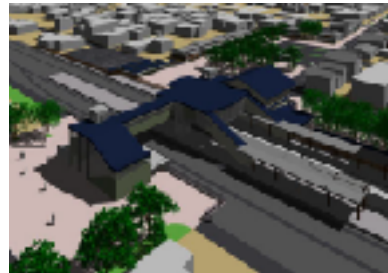
駅前通り、駅前広場平面図 ( 1 2 ,000)

駅舎

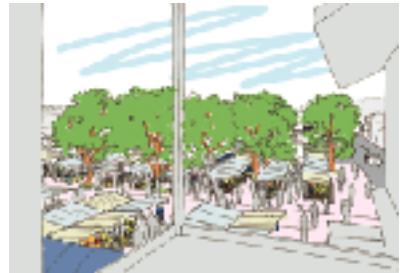
駅には北口も設け橋上駅とする。駅南口は、土佐山田の玄関となるようなデザインにし、北口は、主な利用客は住民なので、機能を重視した駅舎になるようデザインを行った。駅舎内からは外の雰囲気が伝わるようにしてある。



駅舎鳥瞰図 (南東より)



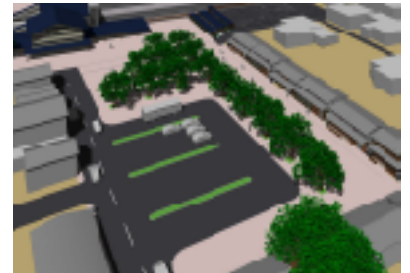
駅舎鳥瞰図 (北西より)



駅舎より南広場を望む

駅前広場

駅前広場には、オープンスペースを広くとる事により、日曜日や山田祭り等といったイベントが行えるようにした。また、広場に面する建物も昔ながらの建物建てることにより、商店街との一体感を持たせている。



南駅前広場鳥瞰図



南駅前広場での日曜日



南駅前広場での山田祭

駅前通り

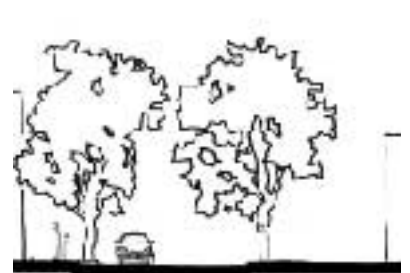
駅前通りは、歩道の幅員を拡張することによって、歩行者空間の充実を図る。また、植樹帯と停車帯を交互に設ける。植樹帯には街路樹を植え、駅前通りが土佐山田のシンボルロードとしての役割を担えるようにする。



南駅前通りを南端より望む



南駅前通りを歩道から望む



南駅前通断面図

商店街

土佐山田の商店街には、看板建築が多く残っており、その看板建築を取り除く事により古い町並みを再生する。また、存在が希薄となっている水路の再生、電線の地中化、空き地等をポケットパークとして整備等を行う事によって、人々が快適に過ごせるようにする。



商店街改修後断面パース



商店街改修イメージ図



商店街改修後平面図



商店街立面図

積算

駅舎	1,800,000千円
南駅前広場 (土地、舗装、樹木、照明、電線地下埋設)	795,659千円
駅前通り (舗装、樹木、照明、電線地下埋設)	128,422千円
北駅前広場 (土地、舗装、樹木、照明、電線地下埋設)	616,228千円
商店街 (看板建築の補修、水路、舗装、照明、電線地下埋設)	1,241,000千円
合計	4,581,310千円

事業費の獲得方法

事業費の獲得方法として、様々な活動を行うことにより、町外から人々を呼び込む。そのためのソフトの提案を行う。提案の幾つかを下記に挙げる。  
例) 広場を利用したの屋台村、映画ロケの誘致、サマーナイトイベントの開催、夏に風鈴等による演出、ミステリーイベントの開催、商店街でのコンクール開催等

まとめ

今回の設計では駅舎、南北駅前広場、駅前通り商店街を行った。しかし、周辺にも古い建物や拠点となる地点がある。それらを同様に整備を行うことによって、さらにより良いモノになると思われる。

## 目次

1 . はじめに	1
2 . 現況調査	2
2 - 1 . 位置	2
2 - 1 - 1 . 広域的な位置	
2 - 1 - 2 . 土佐山田中心市街地における位置	
2 - 2 . 土地利用	3
2 - 3 . 建築分類	4
2 - 4 . 構造 階高別分類	5
2 - 5 . 電柱 街頭位置	6
2 - 6 . 駐車場 空き地分布	7
2 - 7 . 立面現況写真	8
2 - 8 . 現況写真	15
3 . 歴史	18
3 - 1 . 中心市街地形成の歴史	18
3 - 2 . 関連史跡	19
4 . 上位 関連計画	21
4 - 1 . 上位 関連計画	21
4 - 2 . 中心市街地周辺における事業	23
4 - 2 - 1 . 土佐山田駅北地区土地区画整理事業	
4 - 2 - 2 . 土佐山田駅南地区市街地総合再生事業	
5 . 課題の整理	28
5 - 1 . 駅前広場及び、駅前通りの課題	28
5 - 2 . 商店街の課題	29
6 . デザインの基本方針	30
7 . 設計	33
7 - 1 . 駅舎	33
7 - 2 . 南北駅前広場	39
7 - 3 . 商店街	51
8 . 積算	53
9 . まとめ	54
10 . おわりに	55

参考事例

参考文献

### 1 はじめに

現在、日本の地方にあるほとんどの商店街は、モータリゼーションの進展、高地価、商業集積の魅力の低下等により衰退してきている。今後は少子高齢化、人口の減少により更に危機的な状況にさらされている。もちろん、自治体も商店街の活性化のために様々な活動を行っているが、ほとんどの場合が失敗に終わっている。

土佐山田町の商店街もそのような商店街の一つである。商工会は店舗のシャッターに高校生に絵を描いてもらっているシャッター美術館や、街灯のデザインを一新したり、商店街に音楽を流すなどの活動を行っているが、商店街における商店の閉店率の伸びは一向に変わらない。

自治体も土地区画整理事業や市街地総合再生事業等を計画している。しかし、イメージパース等を見た限りでは、土佐山田町にはオーバーなスケールで計画されている。

土佐山田商店街には古い建物(土佐漆喰や水切り瓦などが利用されている建物)、道路わきを通る水路、昔利用していた井戸などがある。また、他にも核となる場所が存在している。しかし、それらは、看板建築などによって隠されてしまい、まちの歴史というものを粗雑に扱っている。

また、市街地の中心にあり、土佐山田町の顔ともなる土佐山田駅前広場は交通機能の役割しか果たしておらず、人々の交流や賑わいの空間となっていない。

今回の設計では、土佐山田商店街に昔から存在するモノを利用することにより、賑わいだけでなく、まちの歴史も知ることができる商店街を形成する。

駅・駅前広場は、現在有効に使われていない土地を駅前広場の空間として利用することにより、交通の機能のみだけでなく人々の賑わい場を提供し、また、商店街までの動線を導く魅力ある空間の提案を行う。

また、これらの景観の観点からの商店街の活性化の提案のいくつかは、全国の他の商店街にも応用可能であると思われる。

## 2. 現況調査

### 2-1.位置

#### 2-1-1.広域的位置

土佐山田町は高知平野の東北部、高知市の当方18kmに位置する面積110.98kmの町であり、主に農業を主体とした田園都市という位置付けがなされる。



図2-1-1.広域の位置図

#### 2-1-2.土佐山田中心市街地における位置図

設計対象地区は、JR土佐山田駅、駅の北側の地区と、JR土佐山田駅の南の広場と駅前通り、及び中心市街地の東西伸びにびている商店街約1kmの区域である。

東西に伸びる商店街は1kmほどの延長があり、その間には郵便局・小学校さらに病院等が含まれており、土佐山田町民にとって日常生活と密接に関わる地区である。

また、対象地区に含まれている「えびす街」は土佐山田町の中心的商店街であり、その集積状況は、物販店が60店、飲食店が35店、その他約10店のサービス店によって構成されている。

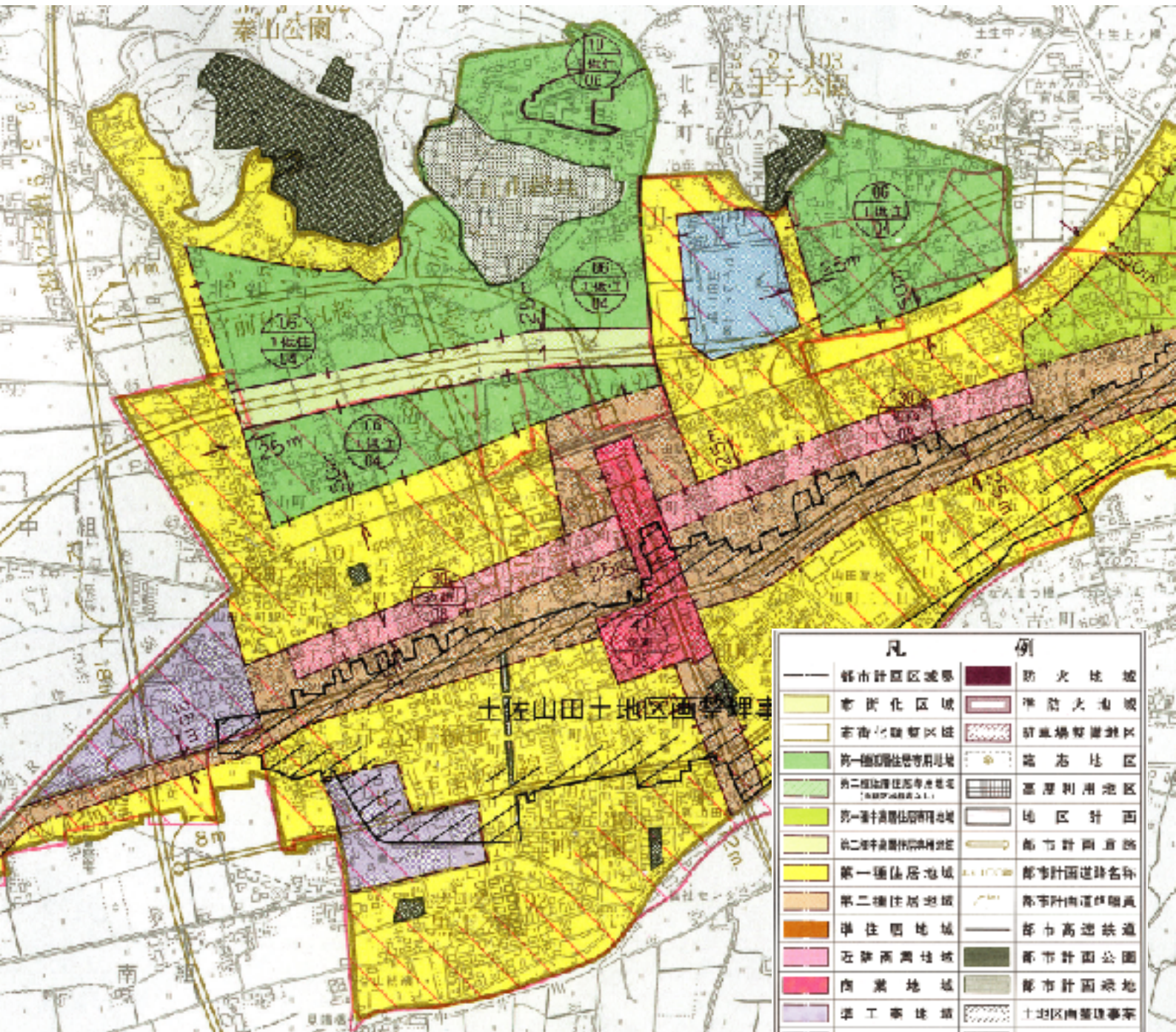


図2-1-2.中心市街地における位置図

2-2 土地利用

土佐山田の市街化区域は、土佐山田町の中心市街地を形成している土佐山田駅周辺に広がる面積225 haの区域で、都市計画区域面積の6.4%がよつと地域に定められている。

今回せっけいを行うJR土佐山田駅の南側の駅前通りは、商業地域に指定され、東西に伸びる商店街は、近隣商業地域に指定されている。JR土佐山田駅の北側は、第二種住居地域及び、第一種低層住居専用地域と指定されている。



凡	例
—— 都市計画区域境界	■ 防火地域
■ 市街化区域	■ 準防火地域
■ 市街化調整区域	■ 防災緑地
■ 第一種低層住居専用地域	■ 端点地区
■ 第二種住居地域	■ 高層利用地区
■ 第一種中高層住居専用地域	■ 地区計画
■ 第二種中高層住居専用地域	■ 都市計画道路
■ 第一種住居地域	■ 都市計画道路名称
■ 第二種住居地域	■ 都市計画道路幅員
■ 準住居地域	■ 都市高速鉄道
■ 近隣商業地域	■ 都市計画公園
■ 商業地域	■ 都市計画緑地
■ 準工業地域	■ 土地区画整理事業
■ 工業地域	■ 市街地再開発事業
■ 工業専用地域	■ その他の施設
● 指定された地域(市街化)	■ DND(人口集中地区)
● 指定された地域(準市街化)	
● 指定された地域(調整)	

2-2-1 土地利用図



### 2-3 建築分類

商店街及び、駅前通りに面する建物をRC造等、看板を取り除くことによって土佐漆喰や水切り瓦等の古い面構えが出てくるであろう看板建築、現在のままで古い町並みとあう古い建築、建て替えや補修するまだに至っていない最近の建築に分類した。

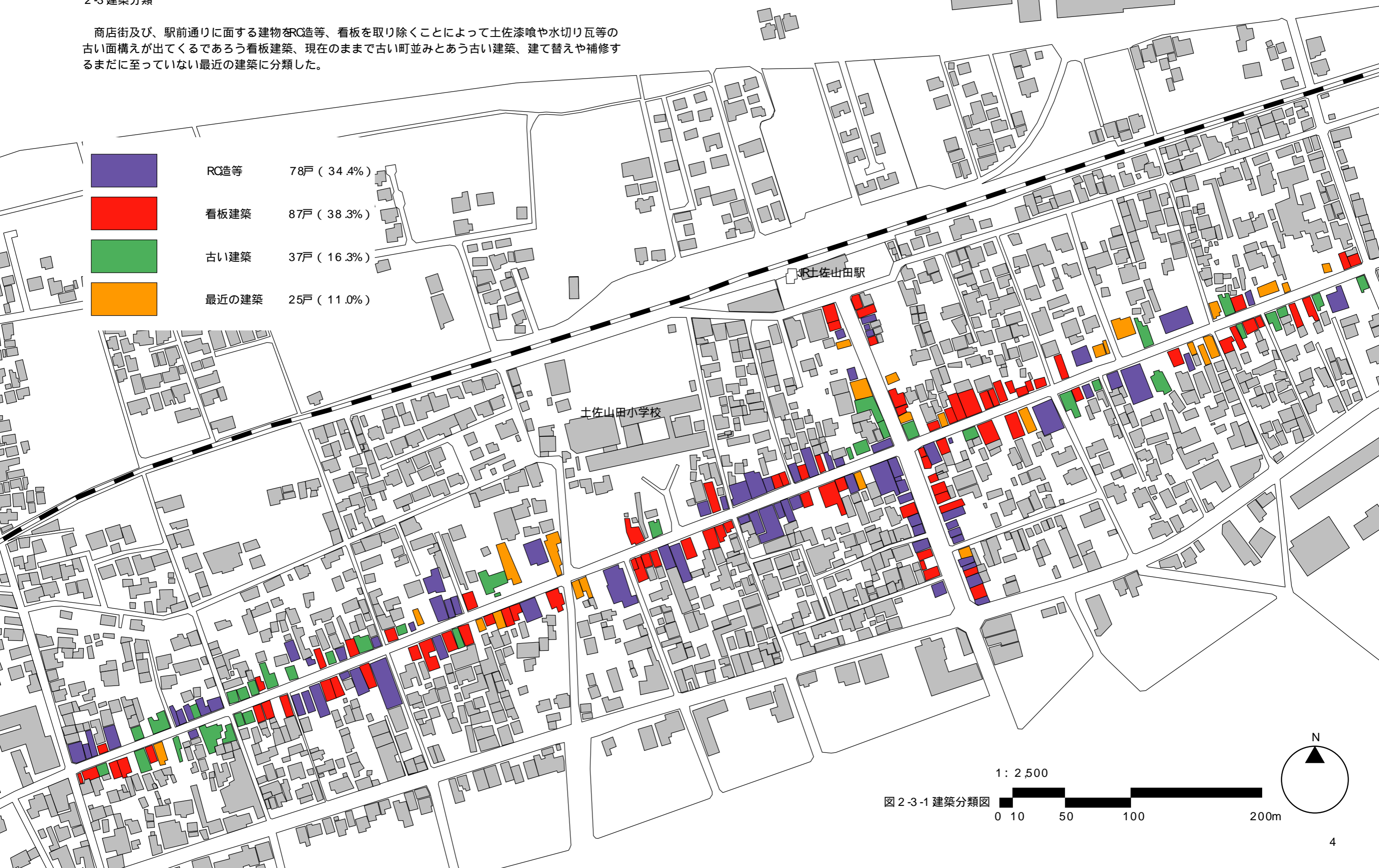
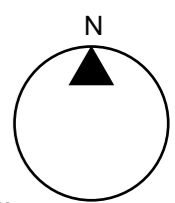


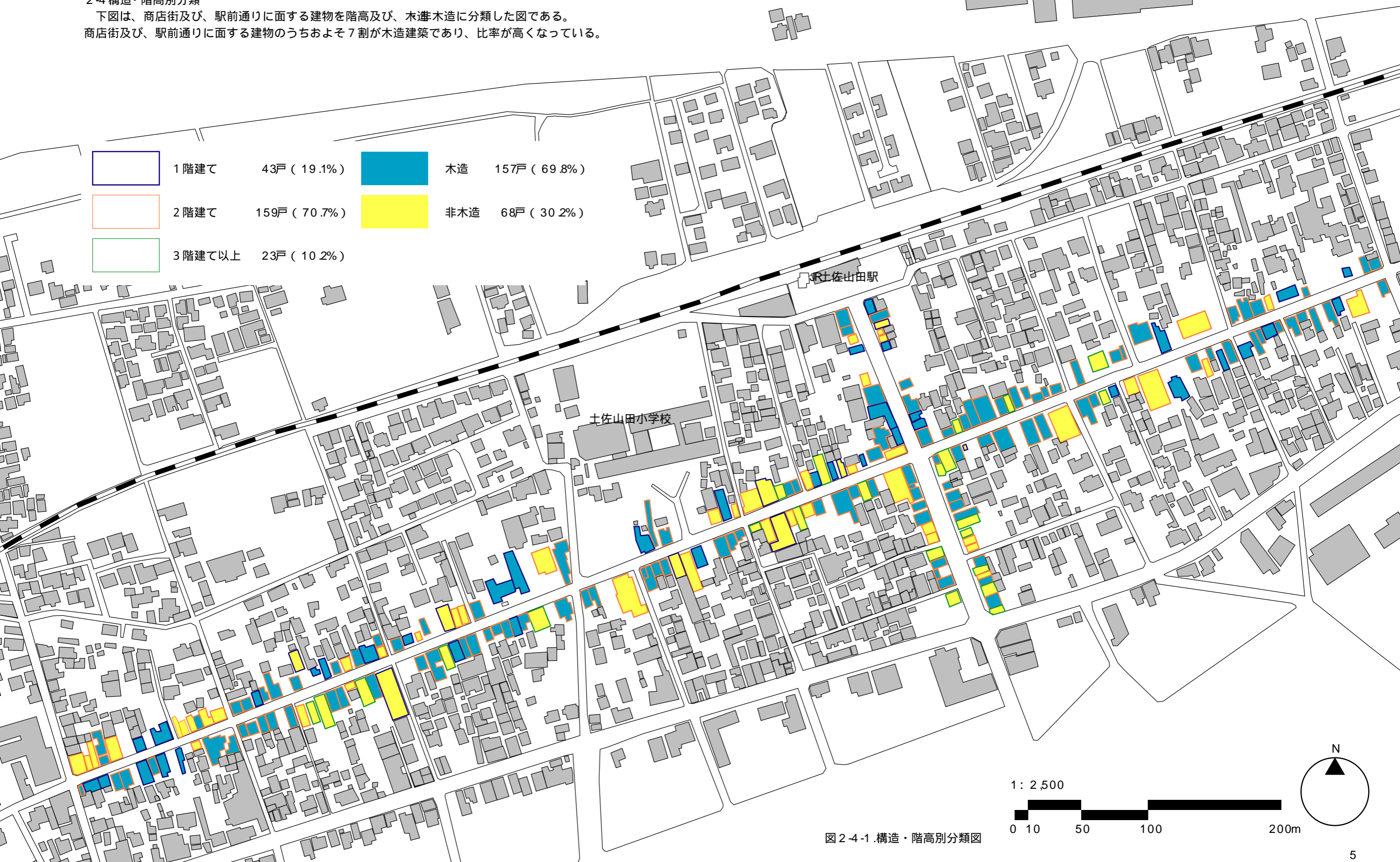
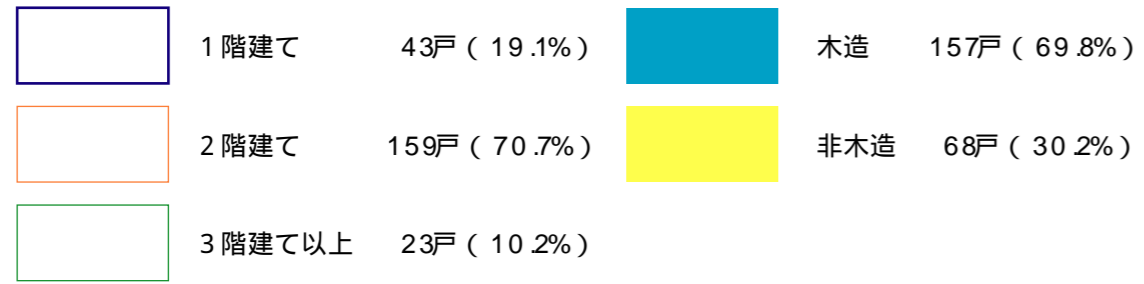
図 2-3-1 建築分類図

1:2,500



2-4 構造・階高別分類

下図は、商店街及び、駅前通りに面する建物を階高及び、木造・非木造に分類した図である。  
商店街及び、駅前通りに面する建物のおよそ7割が木造建築であり、比率が高くなっている。



1:2,500

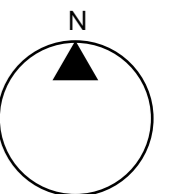
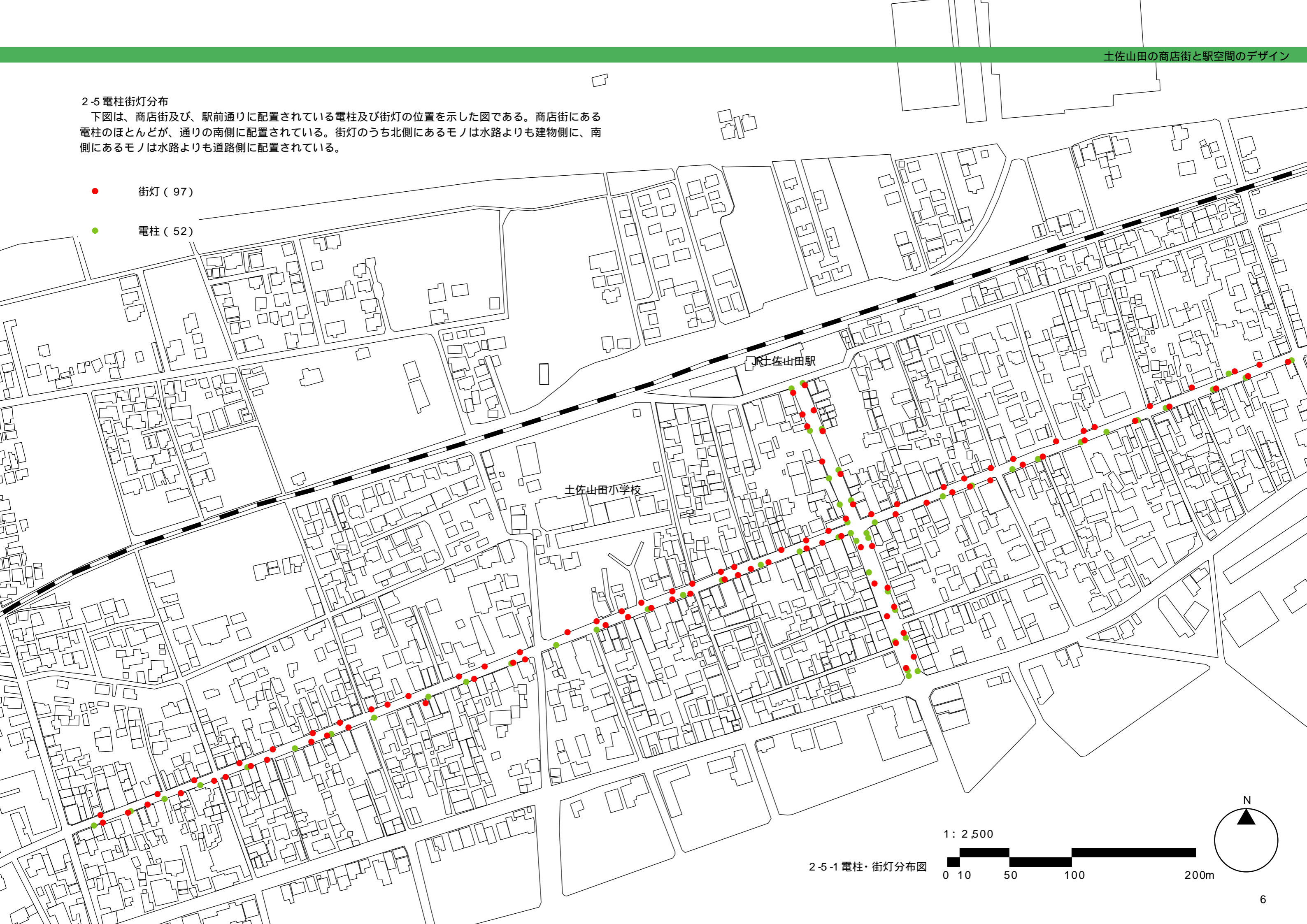


図2-4-1 構造・階高別分類図

2-5 電柱街灯分布

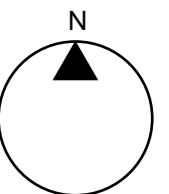
下図は、商店街及び、駅前通りに配置されている電柱及び街灯の位置を示した図である。商店街にある電柱のほとんどが、通りの南側に配置されている。街灯のうち北側にあるモノは水路よりも建物側に、南側にあるモノは水路よりも道路側に配置されている。

- 街灯 ( 97 )
- 電柱 ( 52 )






2-5-1 電柱・街灯分布図

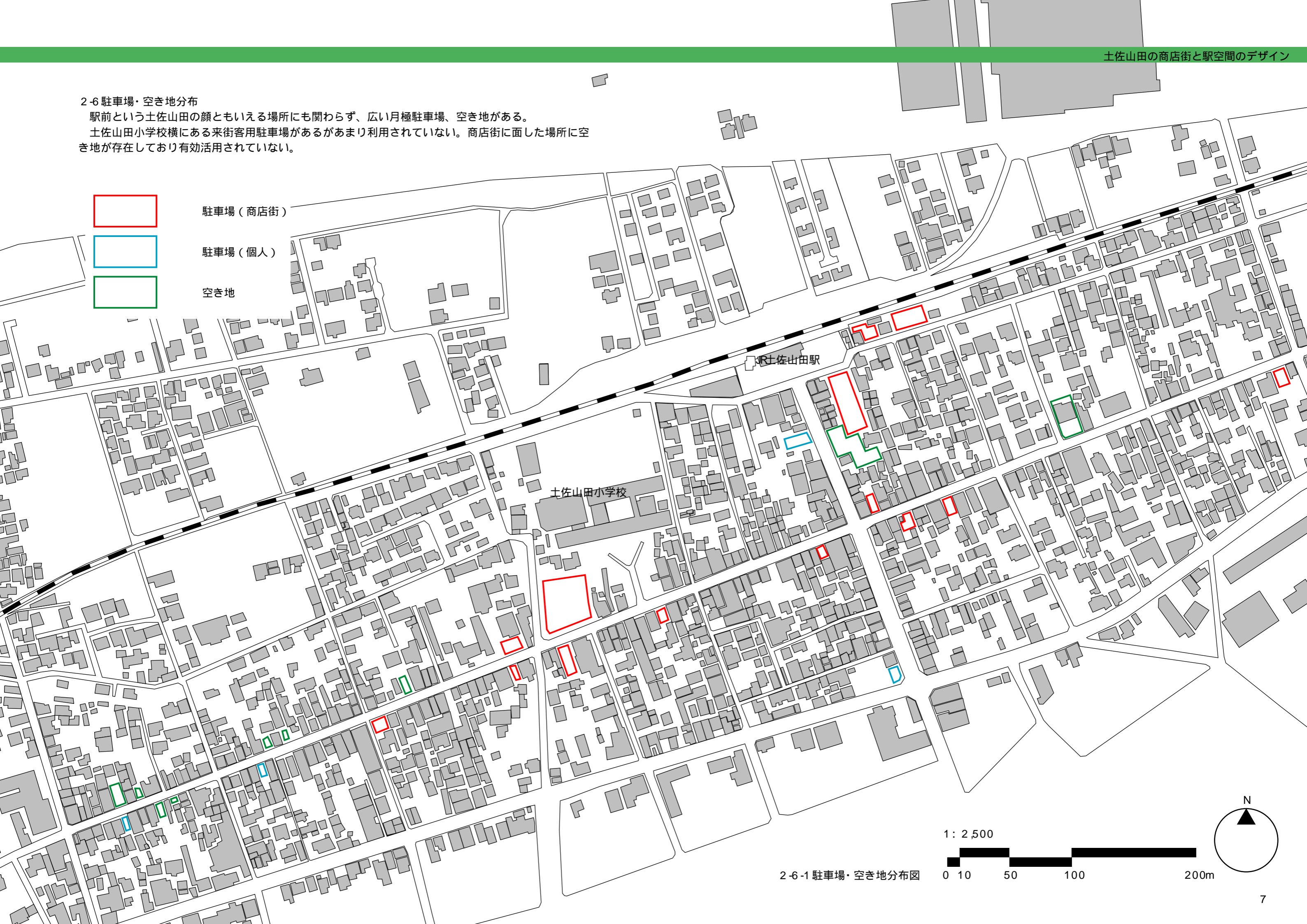
1:2,500



2-6 駐車場・空き地分布

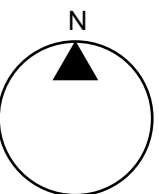
駅前という土佐山田の顔ともいえる場所にも関わらず、広い月極駐車場、空き地がある。  
土佐山田小学校横にある来街客用駐車場があるがあまり利用されていない。商店街に面した場所に空き地が存在しており有効活用されていない。

-  駐車場（商店街）
-  駐車場（個人）
-  空き地



2-6-1 駐車場・空き地分布図

1:2,500



2-7 立面現況写真 商店街立面写真 No.1(東本町北側)



A - A'



B - B'



C - C'



D - D'



商店街地図地図 1: 2,500



E - E'

土佐山田町 商店街立面写真 No.2 (東本町南側)



A - A'



B - B'



C - C'



D - D'



商店街地図 1/2,500

土佐山田町 商店街立面写真 No.3 (西本町北側1)



A - A'



B - B'



C - C'



D - D'



E - E'

商店街地図 1/2,500

土佐山田町 商店街立面写真 No.4 (西本町北側2)



A - A'



B - B'



C - C'



D - D'



商店街地図 1/2,500



土佐山田町 商店街立面写真 No.5 (西本町南側1)



A - A'



B - B'



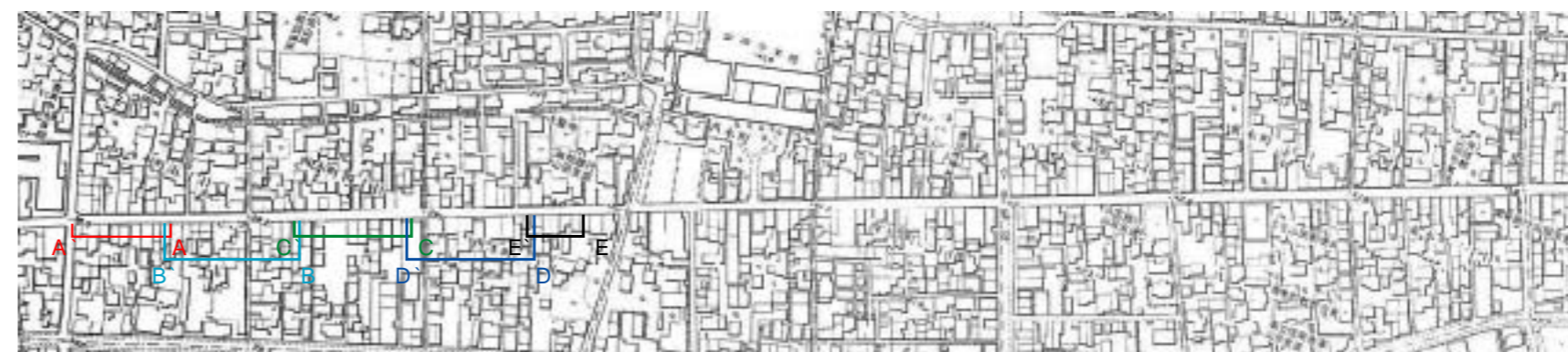
C - C'



D - D'



E - E'



商店街地図 1/2,500

土佐山田町 商店街立面写真 No.6 (西本町南側2)



A - A'



B - B'



C - C'



D - D'



商店街地図 1/2,500

土佐山田町 商店街立面写真 No.7(駅前通り)



A - A'



B - B'



商店街地図 1/2,500

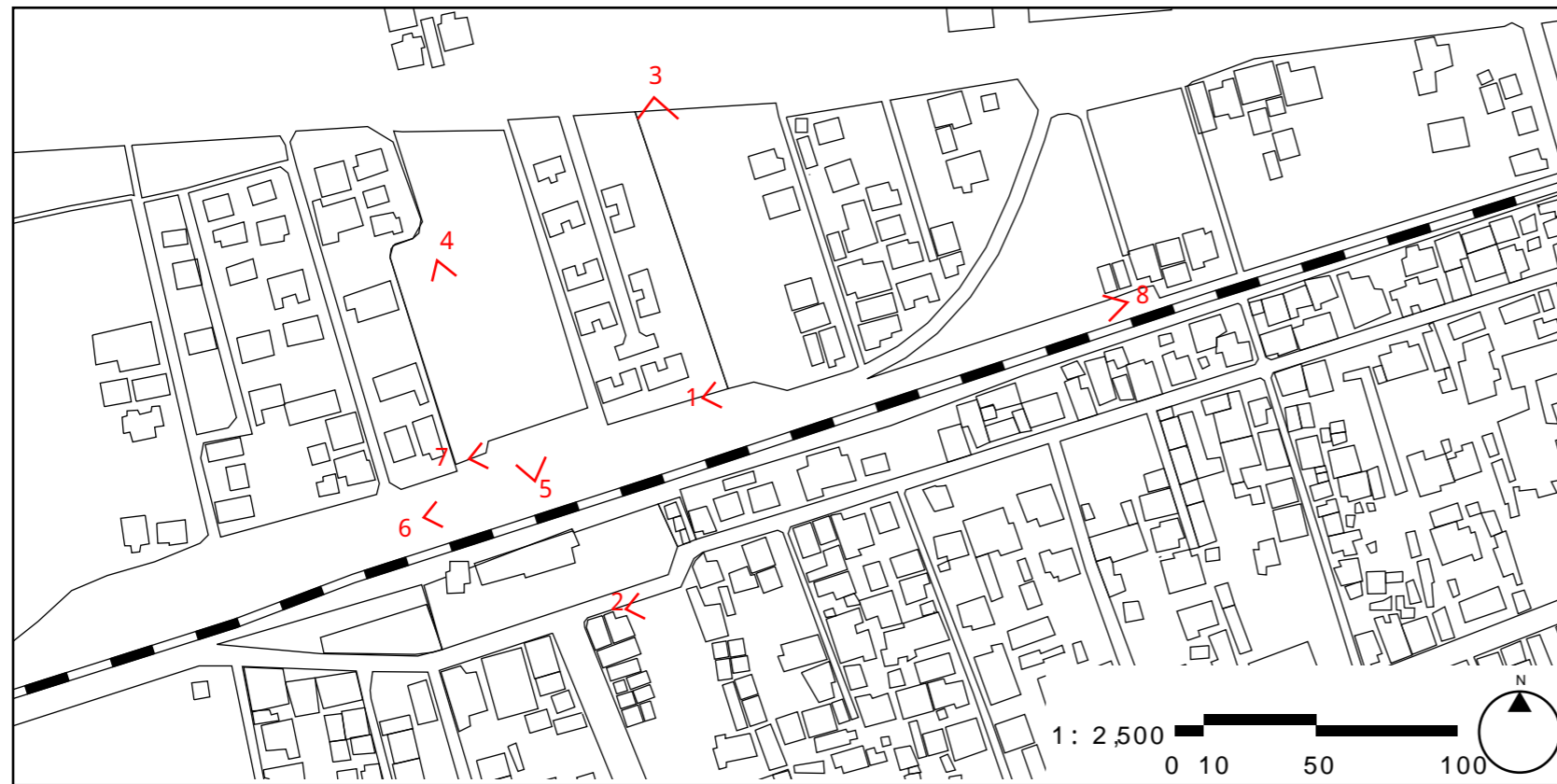


C - C'



D - D'

2-8 現況写真 現況写真 No.1



現況写真 1：駅北を流れる水路



現況写真 2：駅南を流れる水路



現況写真 3：宅地の間に挟まれるようにある田んぼ



現況写真 4：駅北にある売地



現況写真 5：駅ホームより北側を望む



現況写真 6：駅ホームより

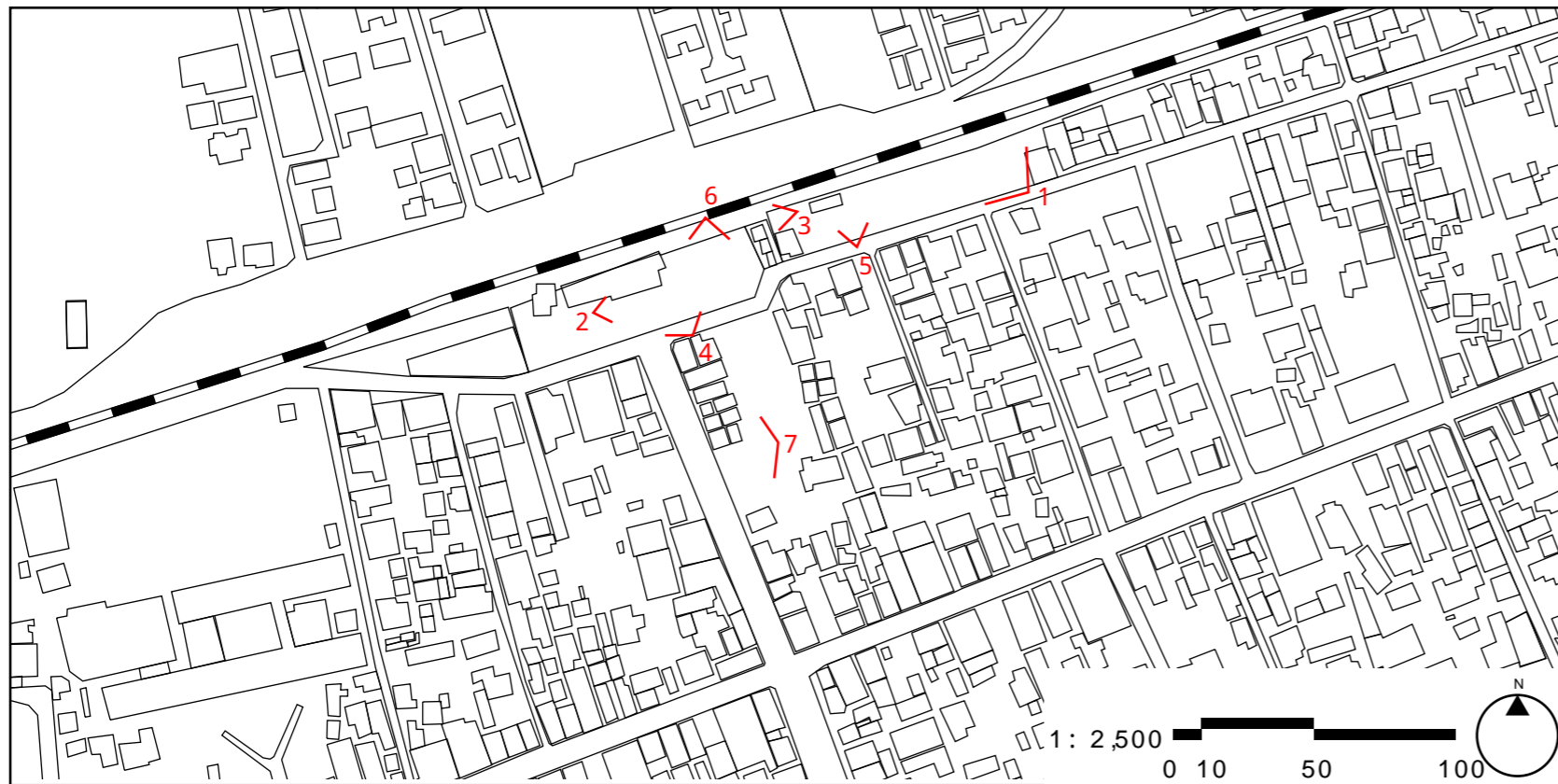


現況写真 7：駅北の宅地と駅構内との境界



現況写真 8：駅北の宅地造成地

現況写真 No.2



現況写真 1 : 駅北を流れる水路



現況写真 2 : 駅前にある龍河洞のモニュメント



現況写真 3 : 駅東にある駐輪場



現況写真 4 : 駅前広場を望む



現況写真 5 : 駐輪場入り口付近

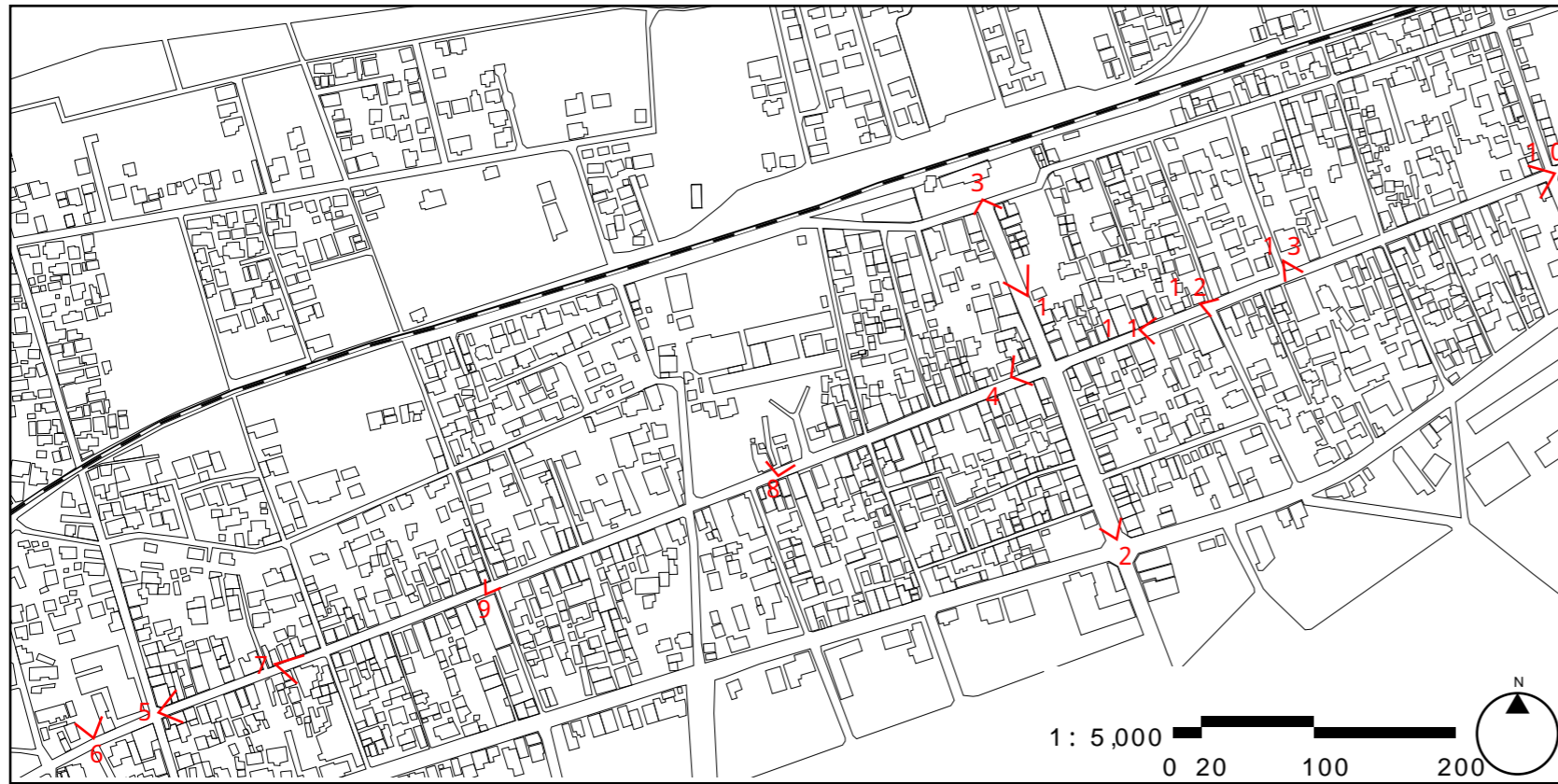


現況写真 6 : 駅南にある駐車場と空き地



現況写真 7 : 駐車場と空き地

現況写真 No.3



現況写真 1：駅を望む



現況写真 2：駅前通りを南から望む



現況写真 3：駅前通りを北から望む



現況写真 4：商店街の水路の蓋



現況写真 5：商店街を西から望む



現況写真 6：商店街の西を流れる水路



現況写真 7：松尾酒店



現況写真 8：シャッター美術館



現況写真 9：道路わきにある祠



現況写真 10：商店街を東から望む



現況写真 11：目立つ電柱電線



現況写真 12：商店街に残ってる古い建物



現況写真 13：無造作に置かれている室外機

## 3-1 土佐山田町(中心市街地)の歴史

中心市街地の町並みは「現在の百石町二丁町づくり目にあった昔の市村の東市・西市から移った」という説と、「現在のなんまつ橋の南、上井と中井にはさまれた地域の古町から、いまの秦山町付近の新町に移されたが、東西の交通路を考えて、再び旧山田町の町並みの線に移住させられた」という説がある。そのいずれの説が正しいのか、立証する記録がないので、どちらもいえないのだが、長宗我部地検帳から考え、また古町・新町という比較的新しい時代にできたホノギ小字)から推察して、後説が有力となっている。

上井より北に水を引く横瀬川が完成しても、水利の便を得るのは山田野の西部であり、他は水の便の悪い乾燥地であった。伝えるところによれば、野中兼山は梶掘川を境として西に西町を三丁、東に六丁を東町とし、さらに後になって東町を中町三丁と東町三丁に分割したが、横堀川以東は特に水の不便のために定住しようとする者が少なく、倉入に住む伝左衛門 武兵衛兄弟の意見を採用して、東と西の二か所に大井戸を掘り共同使用にあてたので、その後はだんだんと人家が増加し井戸を、現在の町並みを形成していった。



図 3-1-1 水路現況図

## 3-2 関連史跡

土佐山田の中心市街地を形成するに至った史跡の場所は下図に示す。



図 3-2-1 関連史跡の位置図

- 公儀の井戸 -

上記にあった二つの大井戸は公儀の井戸と呼ばれ、土佐山田駅十字路南側径 2.4 m、深さ 10.5 m) と、東本町 3 丁目の道路南側径 1.8 m、深さ 14.5 m) にある。

野中兼山が山田野地を開墾し、正保、万治年間(644 ~ 1660)に山田野地の町をつくった。はじめ西町三丁と東町六丁。後に東町六丁を二つに分けて中町三丁と東町三丁とし、当時「山田九丁町」と称せられた。

しかし、台地のため用水が乏しく、来往する人が少なかったので、地元住民の意見を入れて、高岡郡以東六郡の井戸掘り職人を集め、中町と東町に大井戸を掘った。

その後、来往者がふえ、現在の山田町ができた。この井戸を公儀の井戸といわれている。



写真 3-2-1 東本町 3 丁目の公儀の井戸



## - 松尾サイフォン -

山田用水の「カタブキ」から鍋山」に至る約205mのサイフォンである。町長松尾富功禄が私財をも投じて、世界的にも珍しいオランダ様式の土管サイフォンで敷設したが、一部破裂したので、コンクリート管に鉄管を併用するなど種々改良を重ねて、明治42年に竣工した。



写真 3-2-2 カタブキの取水口



写真 3-2-3 鍋山の出水口

## - 甫喜ヶ峰疎水 -

新改川の流域では灌漑用水量に比べて水田の面積が広く、日照りが続くと農民は大変な苦勞をし、水争いが絶えなかった。特に久次・植田の本田と須江の新田の間では、江戸時代からの早魃の度に激しい争いがあった。明治になってからも警官隊が出動するほどの事件が度々あり、心ある人々を悩ませていた。

明治26・27年と続いて襲った大早害では、すべての川水ことごとく枯れて争う水も今は無く、苦痛の余り、各関係村の有志で雨乞いの祭りを行ったとき、奇しくも「甫喜ヶ峰にトンネルを貫いて、無穀川といわれる穴内川の水を新改川に引こうではないか」という声が起こった。

これがやがて関係全農家を一丸とする運動に発展し、郡長・県知事・県議会等の積極的な尽力と実業家たちの協力を得て着工、幾多の困難を乗り越え、坑夫たちの決死的活動もあり、また唐箕を使って坑道内の酸素不足を補うため坑夫妻女も出動し、着工以来3年10ヶ月・明治33年7月14日貫通した。

トンネル「キトンボウ」取水口から長さ935m、灌漑面積480ヘクタール。藩政時代から続いていた水争いは全面解決し、さらに明治42年高知県最初の水力発電所も建設された。

明治26年に甫喜ヶ峰疎水の計画が持ち上がる。(享保の時の馬場弥五六が計画)

発起人：高野、都築

水利組合委員長：沢本楠木弥、中沢楠弥太

工事主任者：斎藤要策技師

工事期間：明治29年10月～明治34年8月

工費：三〇五八一円

## 4-1 上位計画・関連計画

緑の田園商工都市構想(第3次土佐山田町振興計画) 平成9年3月

計画主体:土佐山田町

- 計画内容 -

目標年次:平成13年

将来人口:24,000人(就業者数:12、240人)

就業構造:第1次産業12.0%、第2次産業26.0%、第3次産業62.0%

将来像:「緑の田園商工都市」…緑豊かな田園都市づくり

複合重層的産業のまちづくり

文化観光レクリエーションによる交流のまちづくり

市街地整備地域:高品位定住都市の顔となる地域であり、利便性快適性 安全性に富んだ美しい、魅力的な市街地づくりを進める。

多自然・定住文化都市構想(第4次土佐山田町振興計画) 平成14年4月

計画主体:土佐山田町

- 計画内容 -

目標年次:平成23年

将来人口:24,000人(就業者数:12、240人)

就業構造:第1次産業12.0%、第2次産業26.0%、第3次産業62.0%

将来像:「緑の田園商工都市」…多自然定住都市づくり

活力ある蚕業のまちづくり

心豊かな交流のまちづくり

市街地整備地域:高品位定住都市の顔となる地域であり、ユニバーサルデザインの優れた市街地整備を図る。また、多自然居住地域の形成を念頭に、豊富な樹木やすぐれた町並みを有する魅力的な市街地づくりを進める。

なんごく・こうち地方拠点都市地域 基本計画 平成9年3月

計画主体:拠点都市地域整備推進協議会、高知市、南国市、赤岡町、香我美庁土佐山田町、他2町2村

事業主体:高知県、高知市、民間企業、南国市、南国市地元組合、夜須町、土佐山田町、香北町、物部村

- 計画内容 -

目標年次:平成14年

対象区域:土佐山田町・高知市・南国市を含む10市町村

性格・機能 中心市街地等における産業・業務、教育文化などの多様な都市機能や良好な居住環境の重点的整備、周辺地域における工業集積やスポーツレクリエーション機能の集積、定住環境の整備などにより、「職・住・遊・学」の機能が整った魅力ある総合的な生活空間の一体的な整備と県勢発展の核となりうる自立的な拠点都市地域の開発整備

拠点地区:土佐山田・北シティ地区(水をいかした快適な生活拠点の整備)

土佐山田学園都市整備地区(工科大学を核とした学園都市の整備)

第1次高知中央地域ふるさと市町村圏計画 平成12年3月

- 計画内容 -

目標年次:平成16年

対象区域:土佐山田町・高知市・南国市を含む12市町村

将来像:「元気、安心、心豊かに生活できる圏域づくり」

地域別整備の基本方向:『工業の集積、学術分化の機能の向上と定住環境の整備』

(都市圏地域)

工業団地の重点的開発、住宅団地の整備や市街地整備等による定住環境の向上  
学術・文化機能の向上及び都市近郊型スポーツ・レクリエーション機能の集積

土佐山田町農業振興地域整備計画書 平成10年4月

計画主体: 土佐山田町

- 計画内容 -

農用地区域の設定方針(下記以外の1,185.4ha)

- ・自然的条件からみて農業の近代化を図ることが相当でない急傾斜地帯等
- ・市街地及びその周辺集落にある地域で、今後存続が困難と認められる農用地
- ・高知中央中核工業団地の予定地

土佐山田町地域防災計画 平成12年6月

計画主体: 土佐山田町

- 計画内容 -

災害想定基準: 台風 昭和45年台風10号級の大型台風が本地方に上陸した場合  
集中豪雨 町全域に平成10年の豪雨程度の降雨があった場合  
地震 南海大地震程度(M8)の地震があった場合

都市防災計画: 規制区域の指定(建築規制)

耐震・耐火建築物の建築促進(土地の合理的利用、耐震耐火の普及)

公共建築物の耐震・耐火等(避難所の役割、特に小・中学校)

都市計画街路の整備(防火帯、救助活動復旧作業)

都市計画公園(避難所、応急救助活動物資集積等の基地、ヘリポート)

市街地開発事業による整備(既成市街地の街路を広げ、公園を造る)

都市用水対策(給水タンク等の資材調達体制、ろ水装置、防火水槽)

## 4-2 中心市街地周辺における事業

### 4-2-1 土佐山田駅北地区土地区画整理事業

#### 施行予定地区

土佐山田の北側に位置し、西は県道前浜植野線、東はセイレイ工業土佐山田工場に隣接する面積28.65 haの地区である。

本地区は現在、地区の中央部を東西に都市計画道路高知山田線が整備され、また土佐山田駅北側に隣接した好条件な位置にあることから今後土佐山田駅の北玄関口として、更には土佐山田町の中心部として現在の無計画な市街化の進行を抑え、計画的な土地利用を促進するとともに町の振興を図る上で種々の施設の受け皿としても重要な位置にあるといえる。

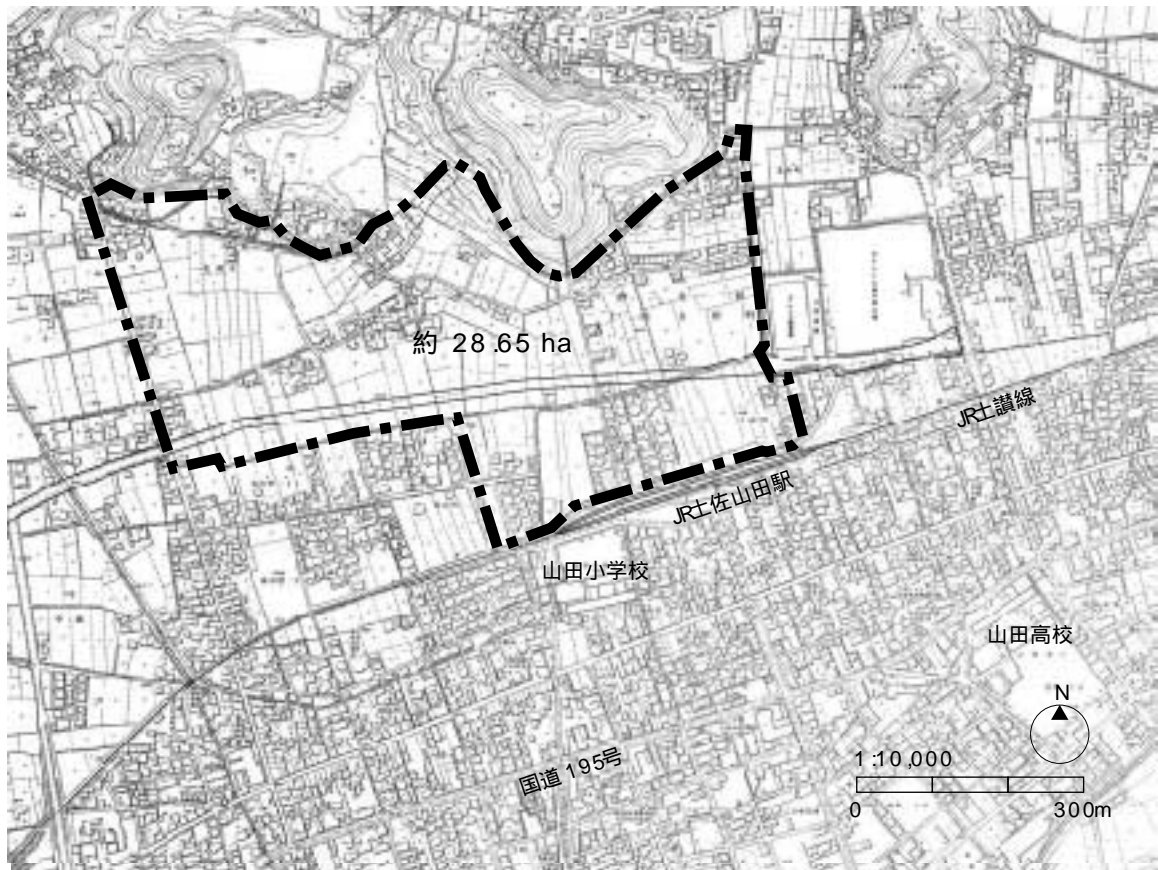


図4-2-1. 施行予定地区位置図

#### 基本方針区

この地区のもつ特色を活かした市街地整備の理念と、計画の基本的目標を盛り込み、まちづくりのテーマが次のように設定されている。

「人つどう 緑豊かな清流の街 北シティ」

また、サブテーマが以下のように設定されている。

#### 《サブテーマ》

- ・ 地域の中核都市として、商業文化交流施設を整備し、にぎわいあるまちづくり
- ・ 良好な居住環境の形成とライフスタイルにあった住居の提供
- ・ 歩行者動線を確認し、人間優先のまちづくり
- ・ 公共公益施設の緑化とともに一般宅地の緑化を推進し、緑豊かなまちづくり
- ・ 水量豊かな用水路を利用した親水空間の形成

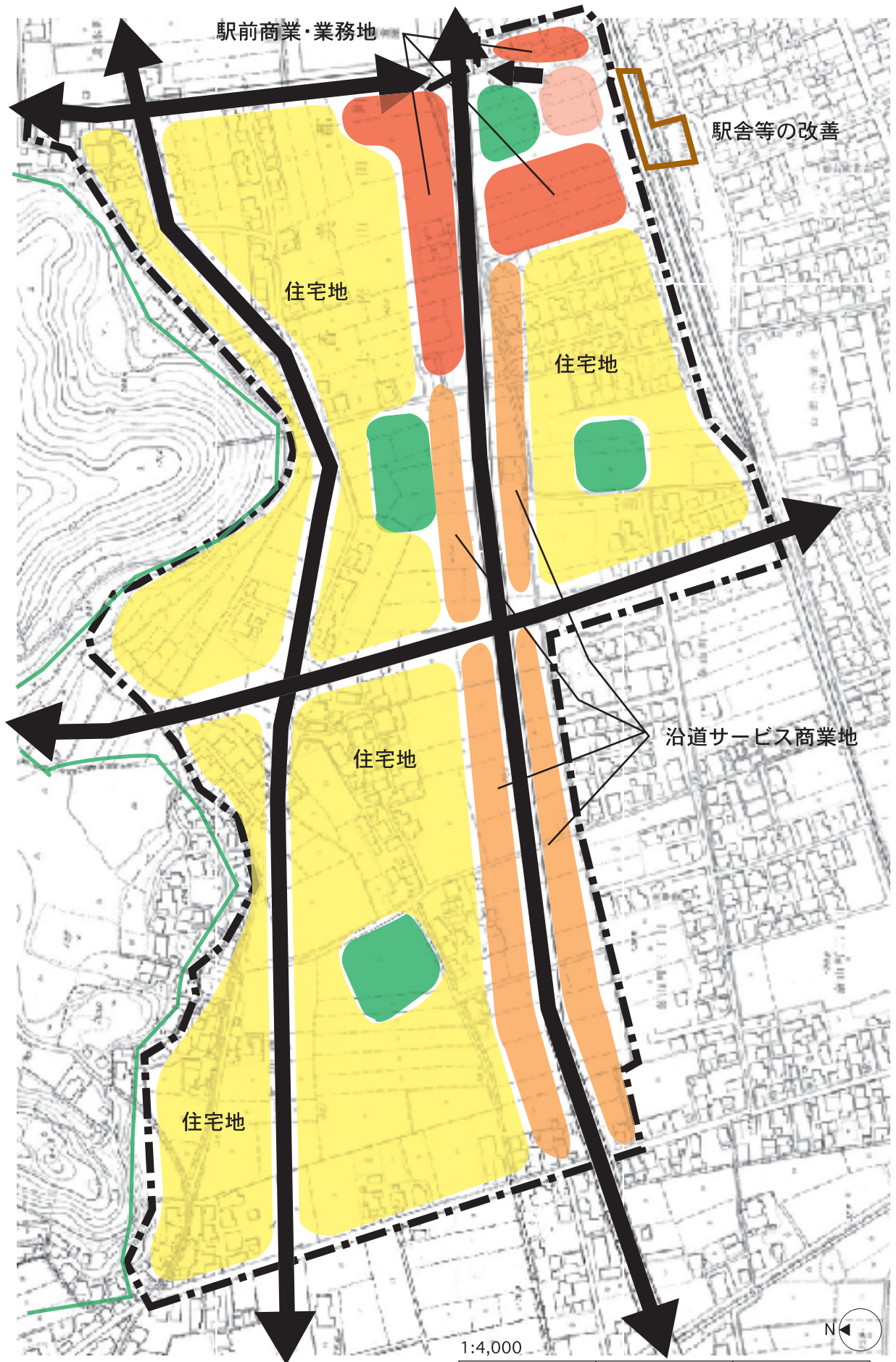


図4-2-2.基本構想図

### 駅前広場の設計

土佐山田駅の駅前広場として現在、駅前南は計画決定面積3,900m<sup>2</sup>にて計画されている。今回の駅北口一帯の整備に伴っては、駅北側においても駅前広場を計画する。

土佐山田町の将来人口約28,000人(平成13年)に基づいて、各種の駅前広場の算定結果に基づいて検討を行った結果、土佐山田駅北口では、1,000~2,500m<sup>2</sup>の結果となったが、駅北口においても本町の新しい玄関口としての機能を分担させるため、ゆとりを持って約3,000m<sup>2</sup>の駅前広場整備する結果となった。

また、北口広場に隣接して広場公園を設けることにより、住民をはじめ、勤労者や来訪者に休息、集いや交流の場を提供するとともに、都市の修景やシンボリックな景観を形成し、ゆとりある魅力的な都市空間を目指すものである。

そして、駅の南北の歩行者動線を確保するため、土佐山田駅は橋上化を図る方針とした。

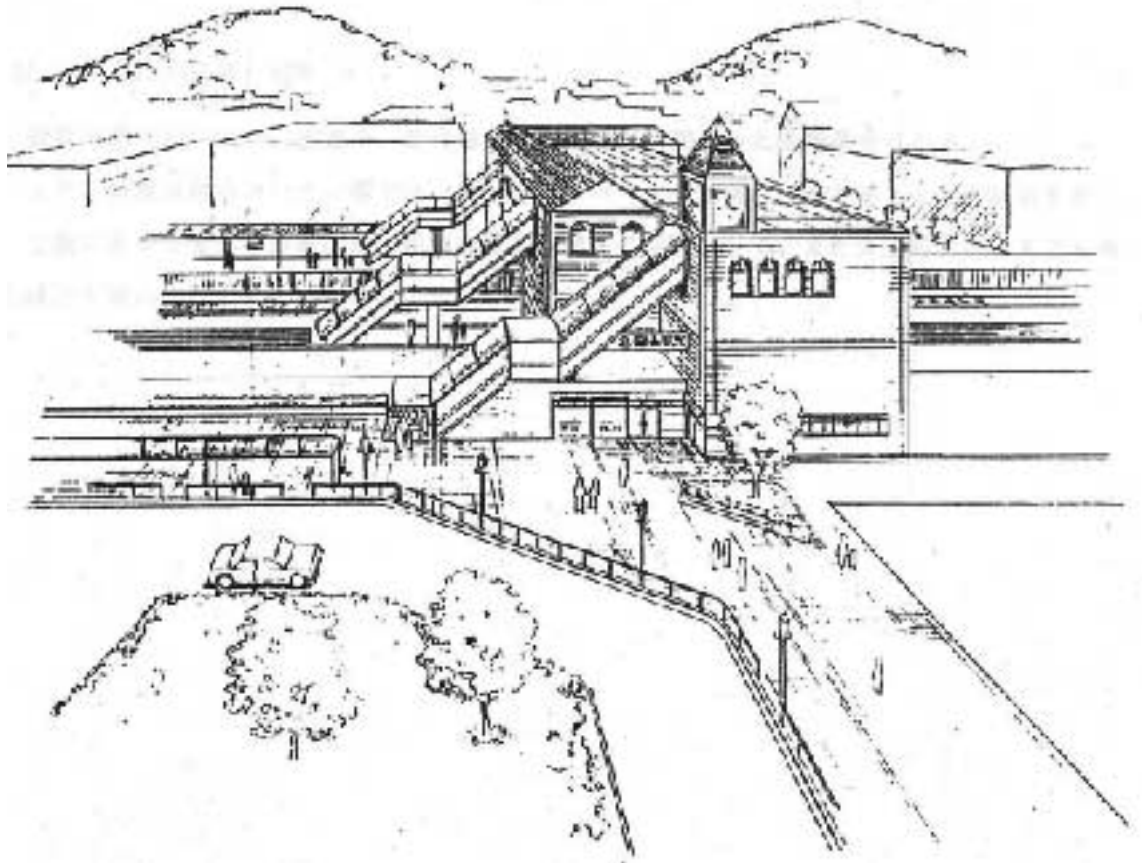


図4-2-3 土佐山田橋上駅イメージ図(出典:土佐山田駅北地区土地区画整理事業調査報告書)

## 4-2-2 土佐山田駅南地区市街地総合再生事業

## 施行予定地区

対象地区は、土佐山田町の中心市街地、JR土佐山田駅の南側駅前に位置する。駅前から南へ直進する県道土佐山田停車場線(駅前通り)を中心に、東西約50m、南北に約150mの面積3.8haの区域である。

対象地区の南側を走る町道2001号線を軸として展開する中心商店街は、東西に長く1.4kmほどの延長があり、その間には警察署 郵便局 小学校さらに病院等が含まれており、土佐山田町民にとって日常生活に密接に関わる地区である。

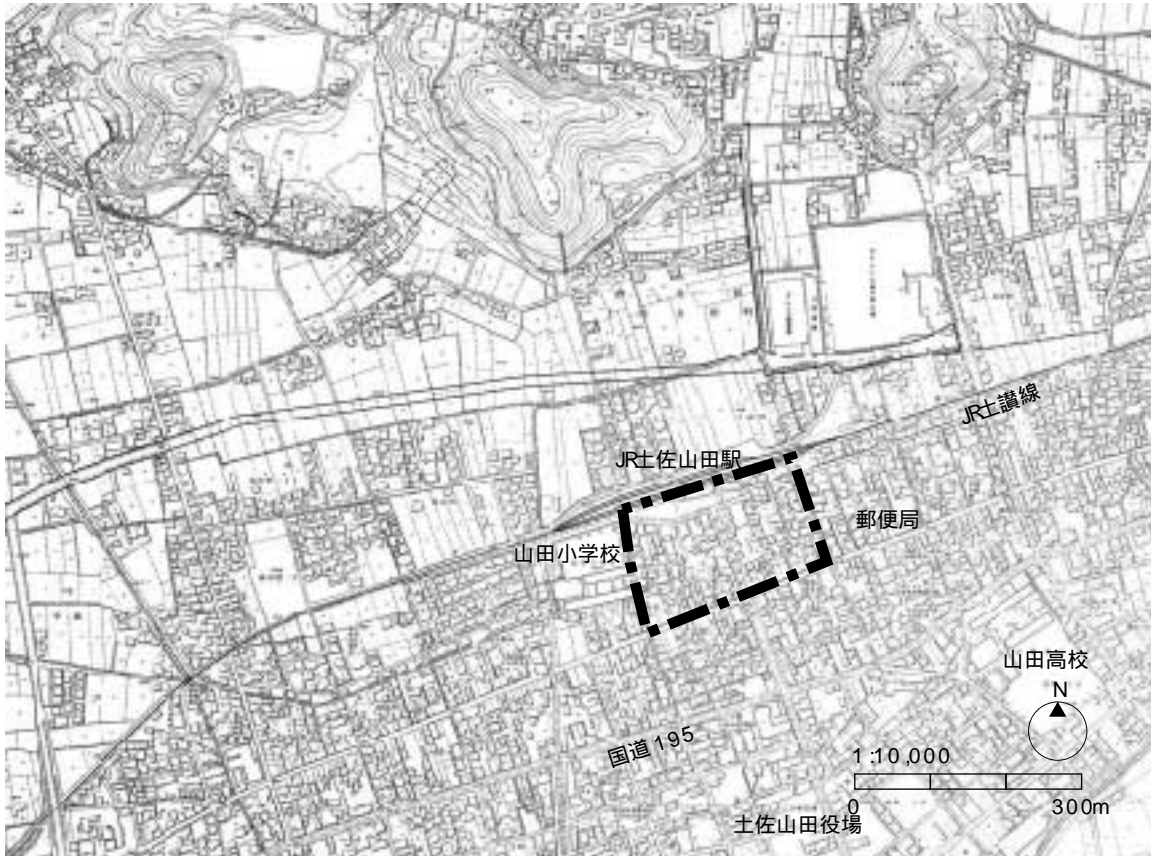


図4-2-4 施行予定地区位置図

## 基本方針

駅南地区の街づくりは、

- 1 人を楽しませるマグネットエリア(集客空間の創造)
- 2 機能充実・集積による情報核(コア)の形成と都会的 個性的なイメージづくり
- 3 新たな商・住・遊環境の形成

これらを基本とする。

そこで、

- prestige (品格)
- complex (複合)
- community (交流)
- amenity (快適)

の4つを、土佐山田駅南地区の街づくりのためのキーワードに、種々の用途機能の複合・融合した日常生活の豊かさが実感できる街」としての

『人と情報の交流によるハイ・コミュニティ・ライフの創造』

をまちづくりのコンセプトとする。

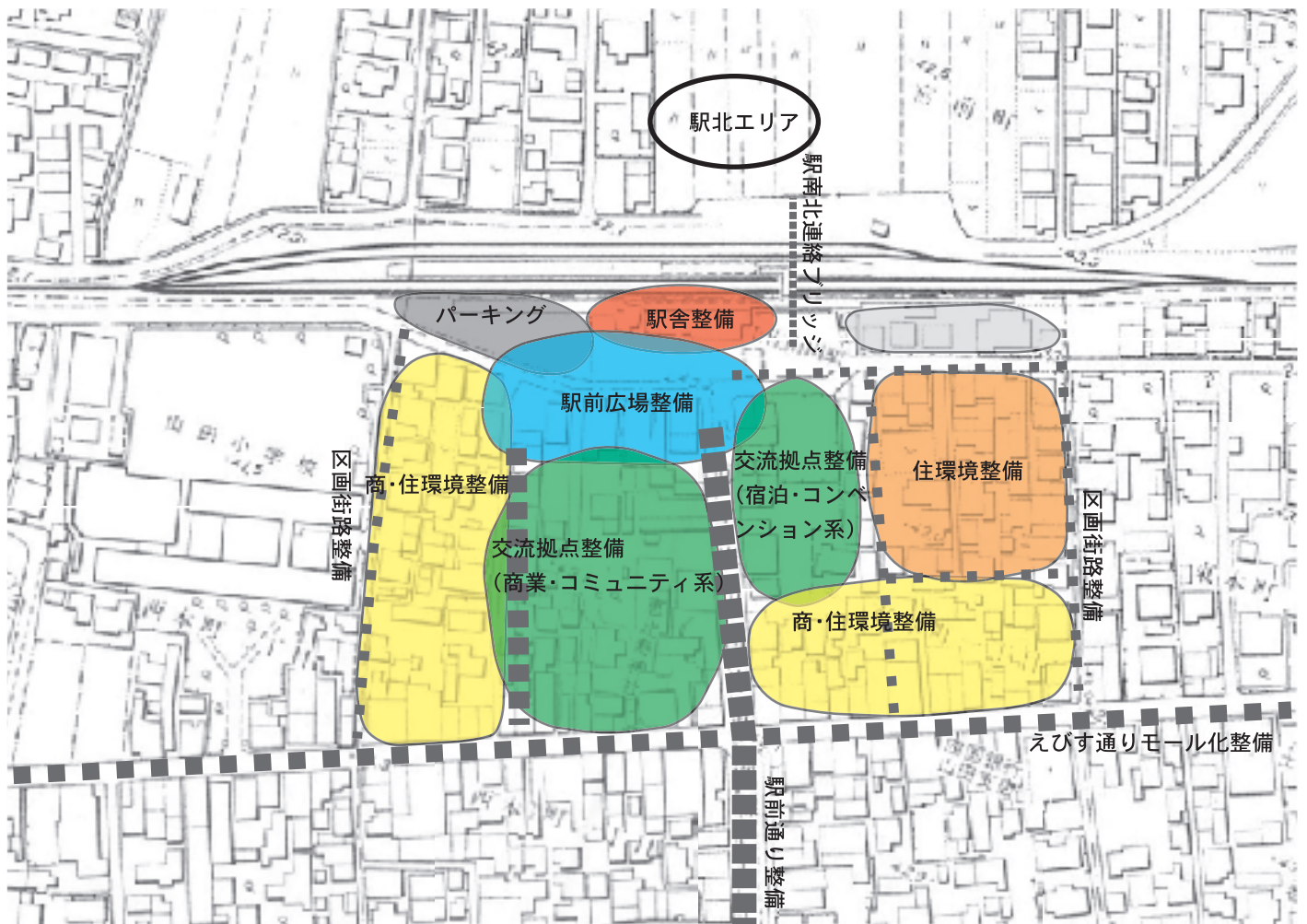


図4-2-5.地区整備方針図



図4-2-6.駅南地区構想イメージ図(出典:土佐山田駅南地区市街地総合再生事業基本計画報告書)



#### 5-1 駅前広場および駅前通りの課題

##### 玄関口としての装いの不足

J R土佐山田駅の駅前広場にはバスプールやタクシーベイといった交通機能しかなく、木々や緑といった憩いと潤いの空間、人々が自由に利用できるオープンスペース等の空間が不足している。

また、駅前通りから望む時も、J R土佐山田駅が駅らしい雰囲気を持ち合わせていない。

##### 駅前通りとしての景観

駅前通りは、土佐山田にとってシンボリックな道路になるべき道路であるが、電柱や破損したプランター、路上駐車、商店の看板等によって、景観を損なっている。

##### 駅前に広がる駐車場と空き地

駅前東側の建物の裏側には、駐車場と空き地が広がっており駅前という人々が行き交う場所を有効利用できていない。



駅前通りに置かれているプランター。手入れがされておらず、破損したりしている。



駅を駅前通りから望む時、目に入るのは駅舎で営業している店の看板で、土佐山田の顔ともいえる駅が、駅としての認識が希薄になる。



駅前広場には、タクシーベイやバスベイ、バスプール、駐車場しかなく、人々がくつろげる空間がない。



統一感のない建物や電柱により、景観を阻害している。

## 5-2 商店街の課題

### 拠点施設の欠如

地区内での拠点施設（シンボル施設）の欠如や、商業集積と結びついた人々との交流の場不足による集客力や情報発信力と賑わいの不足がみられる。また、祭りやイベント等の開催が可能なオープンスペースや、人々の長時間の滞留や回遊を促す街区内のポイントとなる溜まり場や遊び場が必要とされる。

### 空き店舗等の存在

空き地、空き店舗等の存在による商業集積密度の低下や連続間の欠如、また、店舗の老朽化や店構えの不統一など、商環境としての全体的な魅力に欠ける。

### 歩道の未整備

商店街路である町道2001号線（えびす通り）は、車の交通量に比して歩道等が未整備であり、学童や一般歩行者にとって危険であると共に、買物客の回遊性を高める上でも改善が必要となっている。

### 看板建築の存在

昔ながらの建物が多く残っているが、店の看板等によって水切り瓦などが隠されてしまっている。

### 水路の存在の希薄

道路脇を水路が通っているが、蓋をされてしまっており、水路が通っている事が分からない状態となっている。

### 未活用の井戸

商店街及びその付近には、昔使用されていた井戸が残っているが、現在は完全に蓋が被せられており、活用されていない。

### 6 デザインの基本方針

土佐山田町の歴史や、都市計画等の関連計画、現況の課題をふまえて、デザインの基本方針を下記のように設定する。

#### 景観魅力の再生・創造

地区の持つ風土、歴史的な文脈を大切にしつつ、伝統や地域文化の感じられる潤い豊かなものとなるよう建物の形態や色彩等に留意し、豊かな暮らしを送るにふさわしい、質の高い個性的な街となるようにする。

#### 交通環境の整備

商店街(えびす通り)を散策路に長時間、買い物客が滞留回遊するような歩行空間の整備を行う。また、商店街に核となる地点を設ける。(拠点となる地点は次頁に示す。)

#### ゲートエリアとしての整備

土佐山田駅空間は土佐山田町のイメージを強く印象づける玄関口であり、当地区整備では土佐山田町の人々の生活に対応するだけでなく、ビジネス 観光客等地区居住者以外の人々にも好印象を与え支持されるゲートエリア(玄関口)にふさわしいものとする必要がある。そこで、すでに都市計画決定されているが未着手である「駅前広場」の整備や町の南北のシンボル軸として位置づけられる「駅通り」等幹線道路の整備により、駅前が町或いは中心地区の魅力ある玄関口となるよう、気品のある都市イメージ豊かな顔づくりを行う。

#### 水路の再生

水路の蓋を取り除く事によって水の流れを認識できるようにする。また、ポケットパーク等に水の流れを引き込み、親水性を高める。

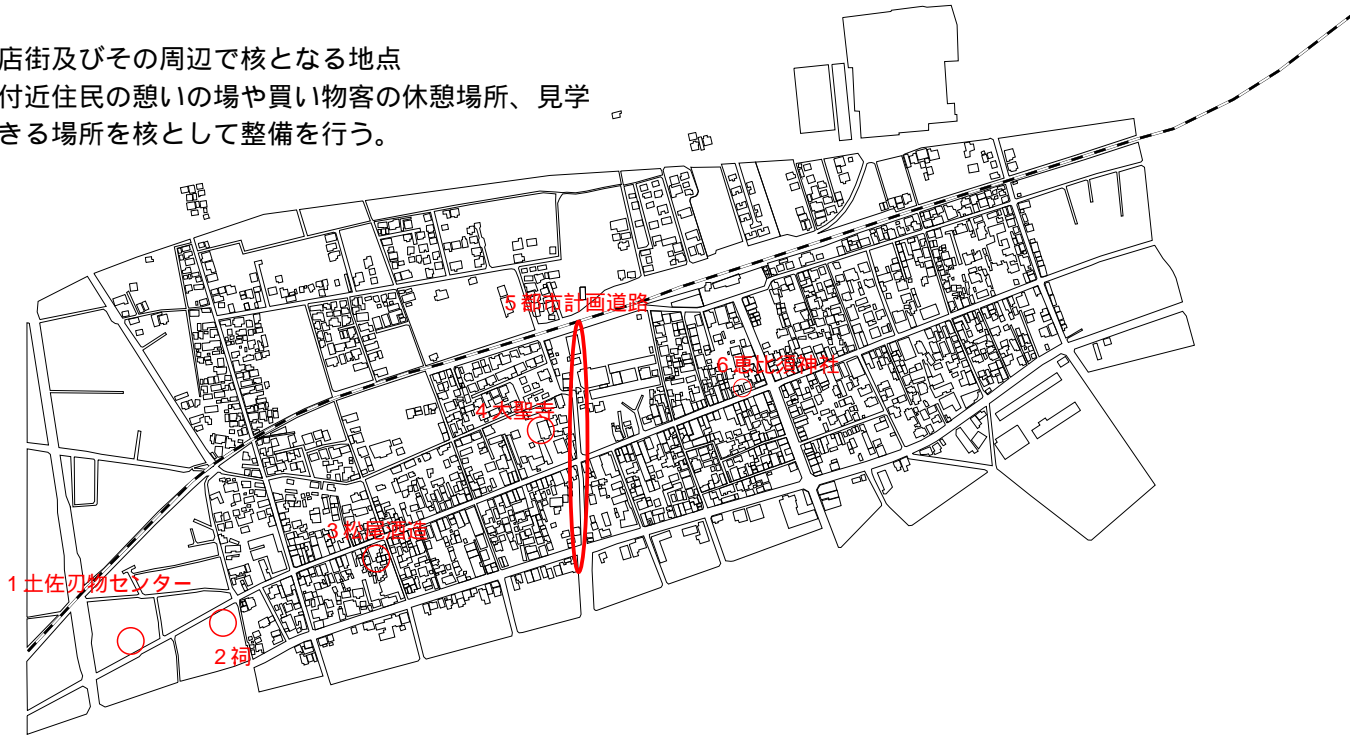
#### 町並みの再生

看板建築の看板を取り除く事により、水切り瓦や土佐漆喰の壁が表に出るようにする。そうする事により、昔の町並みの再生を行う。

#### 駅前の空き地の利用

現在ある駅前の空き地及び駐車場を駅前広場として利用する事により、交通機能だけでなく、人々が滞留でき、イベント等が行える空間にする。

商店街及びその周辺で核となる地点  
 付近住民の憩いの場や買い物客の休憩場所、見学  
 できる場所を核として整備を行う。



1 土佐山田の特産品でもある土佐切刃センター



2 商店街と水路が交差する場所にある祠。木が茂っている



3 土佐山田の地酒を造っている松尾酒造



4 緑に囲まれている大聖寺

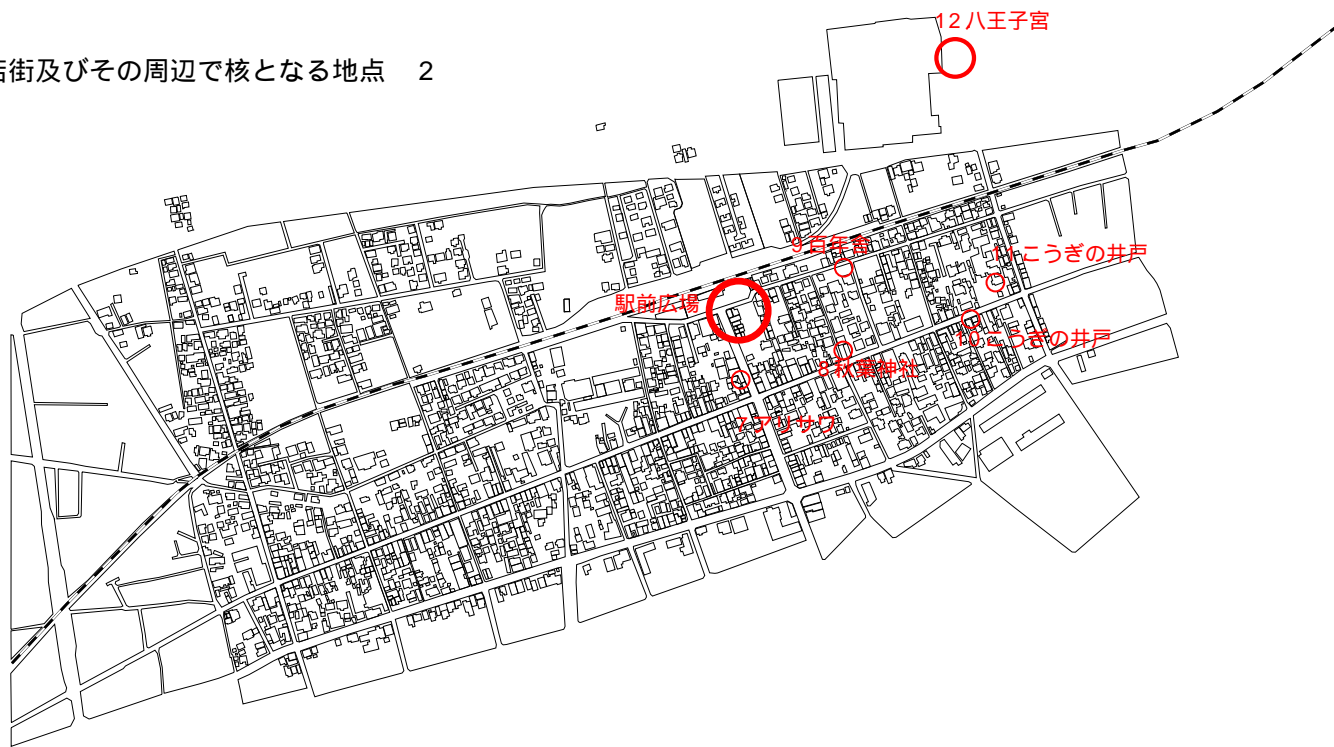


5 都市計画決定されている道路



6 商店街のほぼ中央にある恵比寿神社

商店街及びその周辺で核となる地点 2



7 土佐山田のもう一つの酒蔵



8 葬列もよけて通る秋葉神社



9 大正初期の民家を再生したギャラリー  
百年舎



10 土佐山田の町並みの形成を担った公  
儀の井戸



11 広い敷地のある天理教



12 八王子宮

## 7-1 駅舎

現在のJR土佐山田駅は南口しかなく、高知山田線の整備によって、駅北側の人口が増え、利用者も増えるので、北口を設け、駅を橋上駅とする。

駅南口は、土佐山田の顔となる場所なので、それにふさわしい駅舎となるようにする。そのため、駅前通りから駅を望む時にも存在感がでるようなデザインにする。駅舎内においても、展示や良心市ができる、多目的ホールや観光案内所等を設ける。

駅北口は、主な利用者が住民になると思われるので、機能を重視し、コンパクトな駅舎とする。

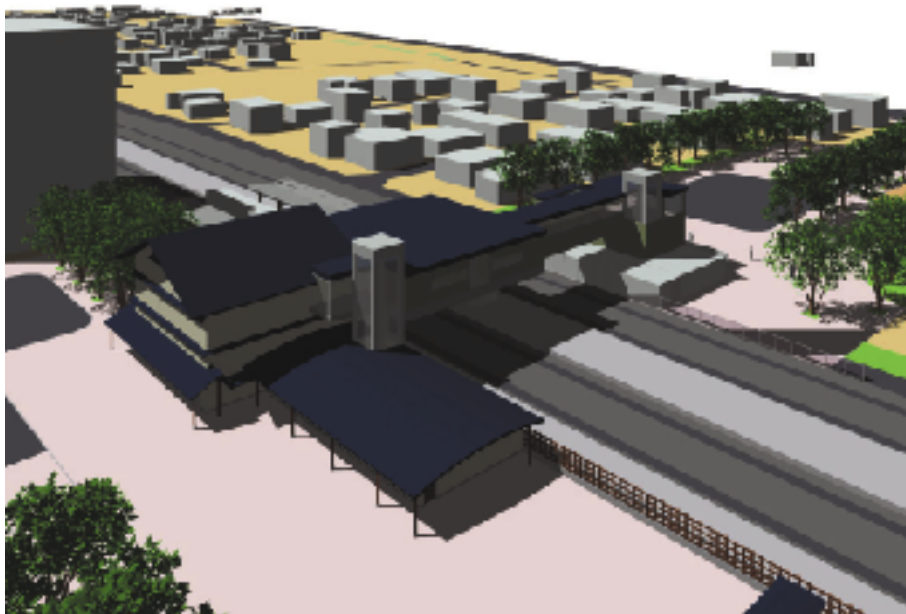


図 7-1-1 駅舎全体パース 南東より

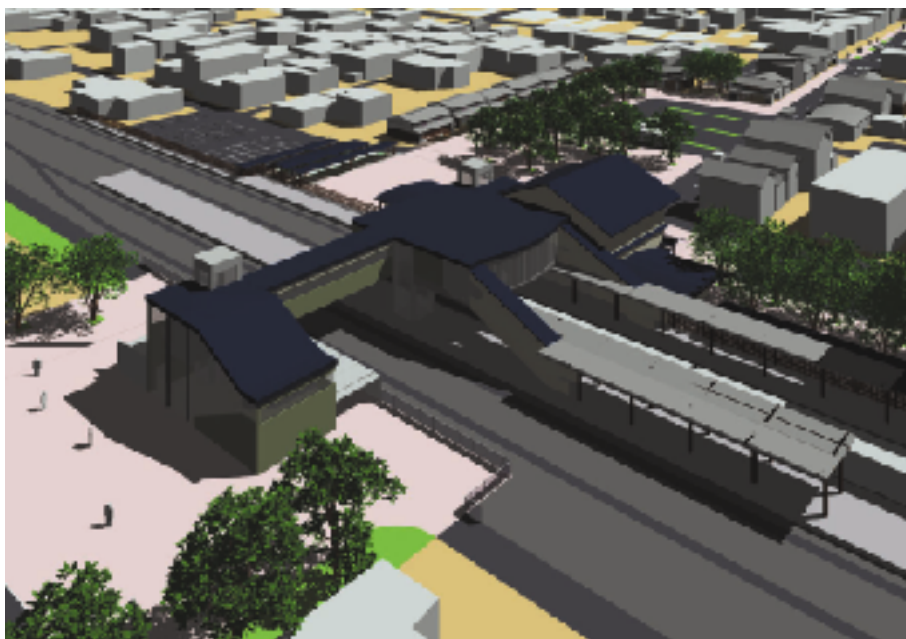


図 7-1-2 駅舎全体パース 北西より

配置図及び平面図

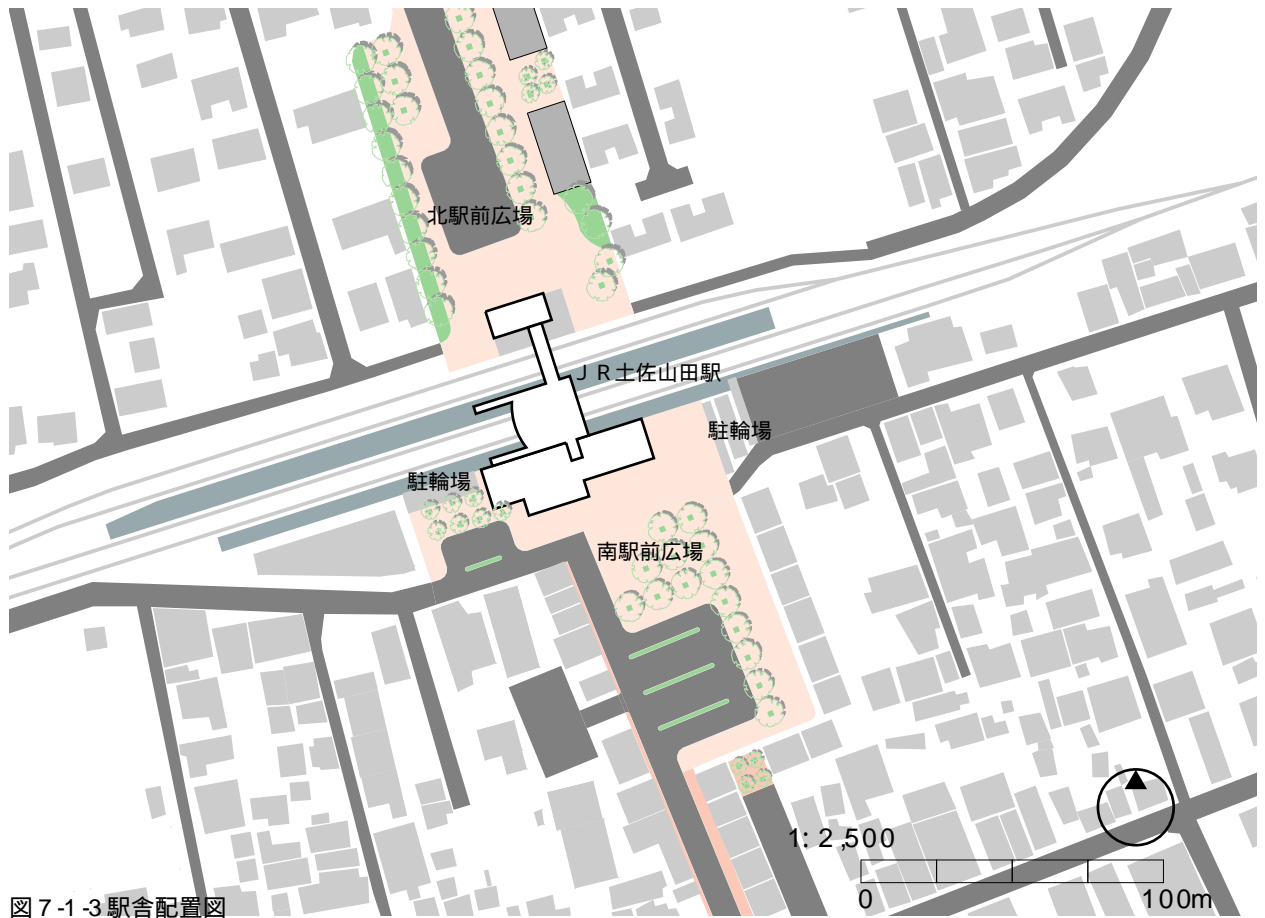


図 7-1-3 駅舎配置図

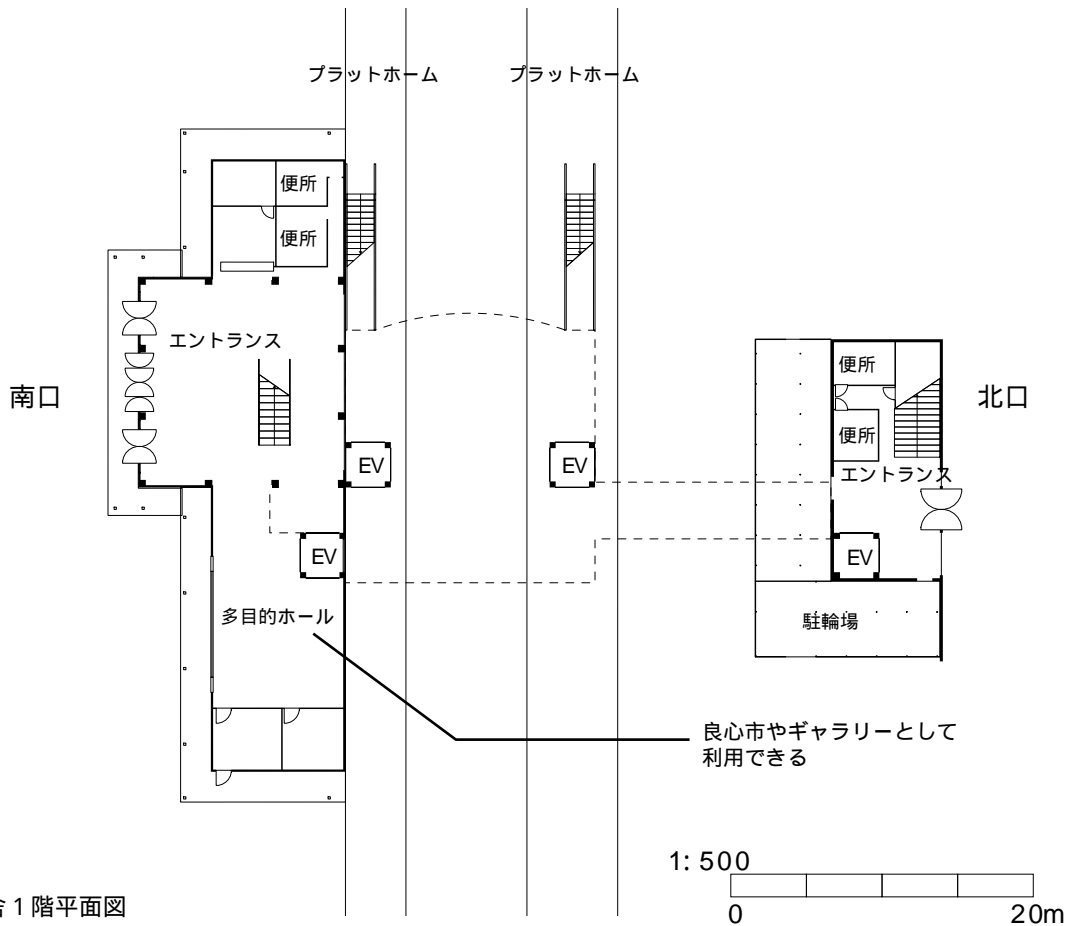


図 7-1-4 駅舎1階平面図

平面図

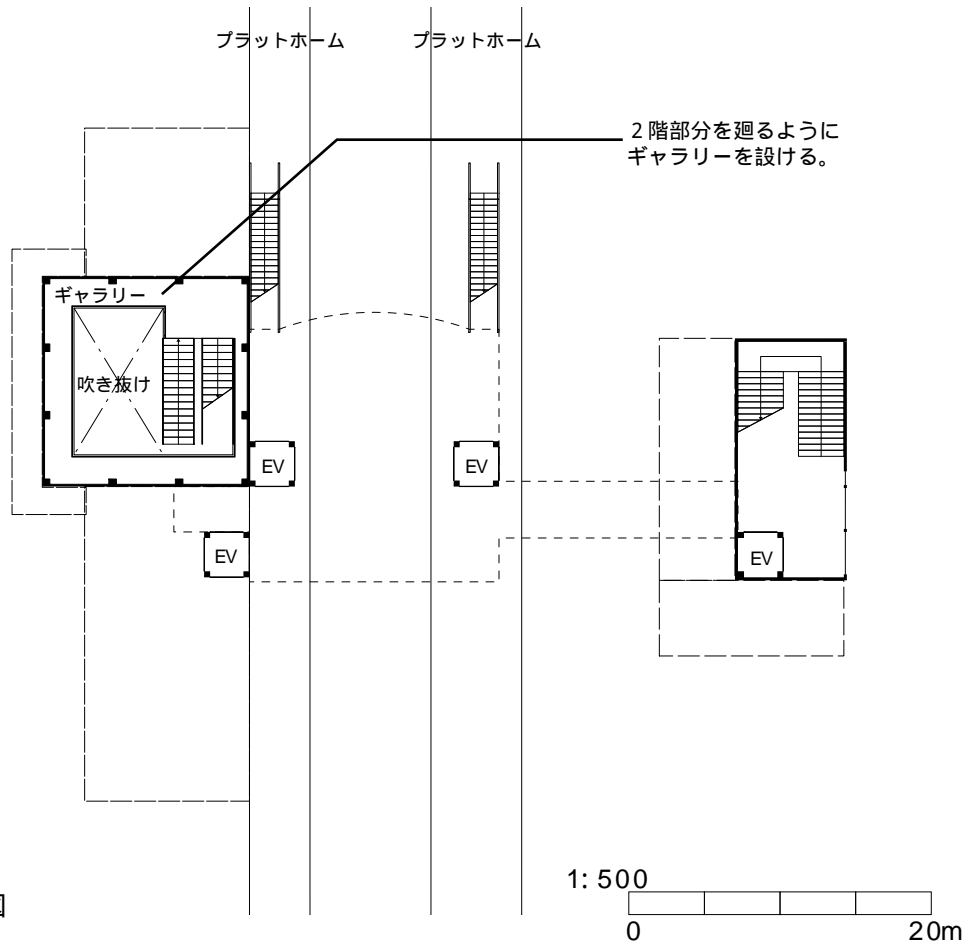


図 7-1-5 2階平面図

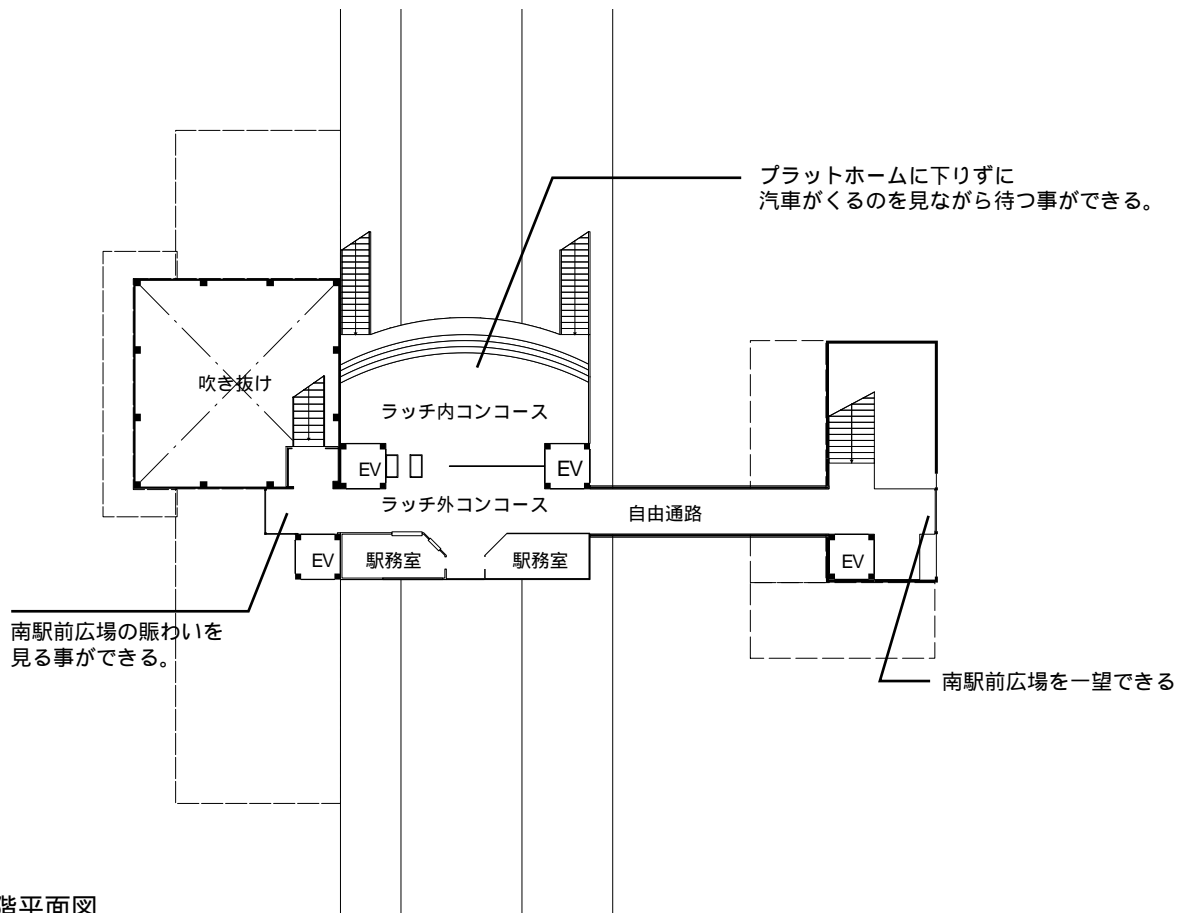


図 7-1-6 3階平面図



立面図

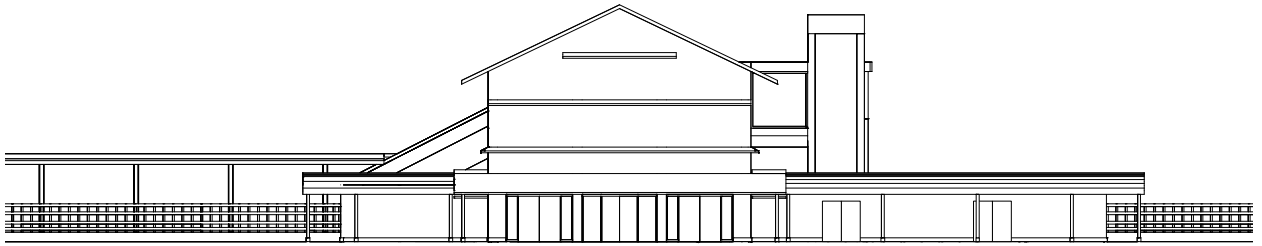


図 7-1-7 駅舎南側立面図

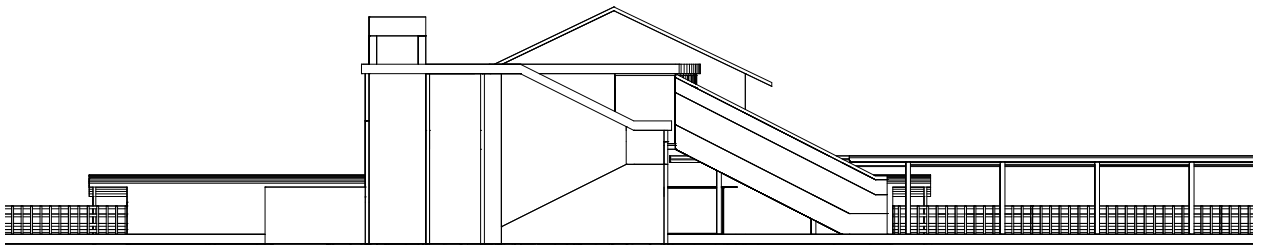


図 7-1-8 駅舎北側立面図

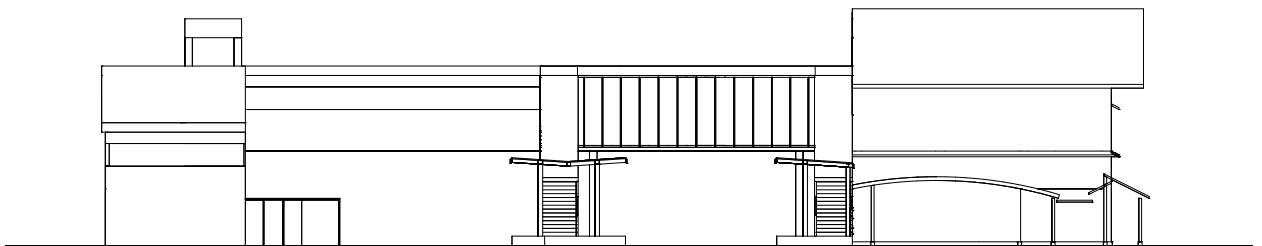


図 7-1-9 駅舎西側立面図

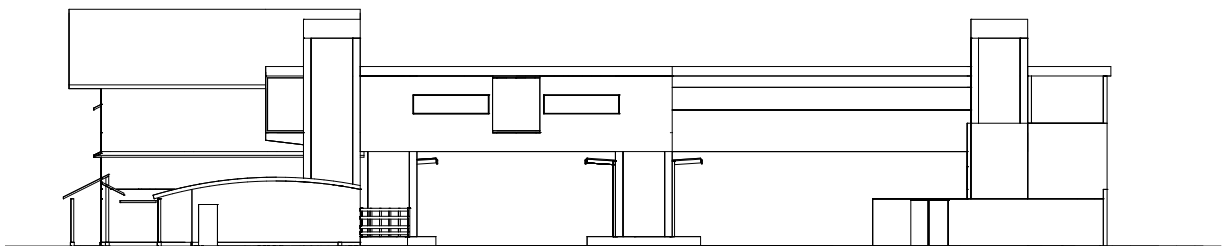


図 7-1-10 駅舎東側立面図

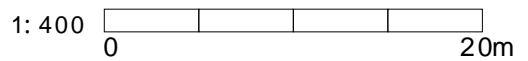




図7-1-11 改札口よりラッチ内コンコースを望む

ラッチ内コンコースは、プラットフォームに下りなくても汽車が来るのが分かるように大きな開口部をとる。また、幅の広い階段を設ける事により座っても待つ事ができるようにする。

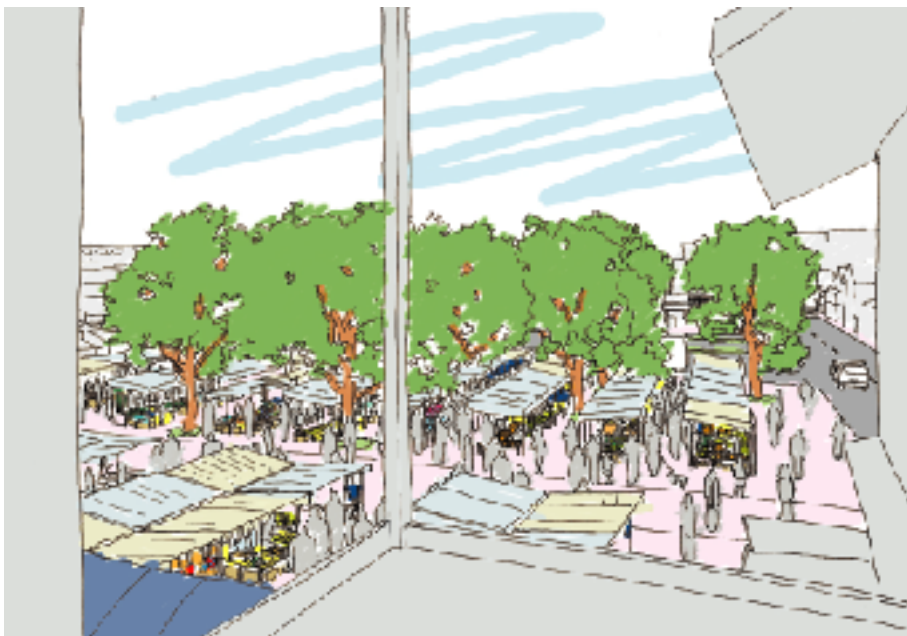


図7-1-11 3階より南駅前広場を望む

3階から南口の2階へ降りる階段の手前には、南駅前広場が望めるようにする。こうする事により、賑わっている南駅前広場へと人々を誘導する。



図7-1-11 改札口よりラッチ内コンコースを望む

南口1階の多目的ホールでは、良心市やギャラリー等が行えるようする。また、2階では壁沿いに廊下を設けて、ギャラリーとする。

## 7.2 駅前広場及び駅前通りの設計

現在の駅前広場の敷地では、交通機能のみしか入っておらず、人々の憩いの空間を設けることが出来ない。そこで、駅前通りの東の駐車場及び空き地となっている土地を駅前広場として設計を行う。

北口駅前広場は、現在都市計画において決定されている場所を設計範囲として設計を行う。

駅前広場では、日曜日や山田祭り等のイベントが行えるスペースを設け、人々で賑わう空間となるようにする。

駅前通りは、歩行者空間の充実を図り、駅前通りがシンボルロードとなるように演出する。

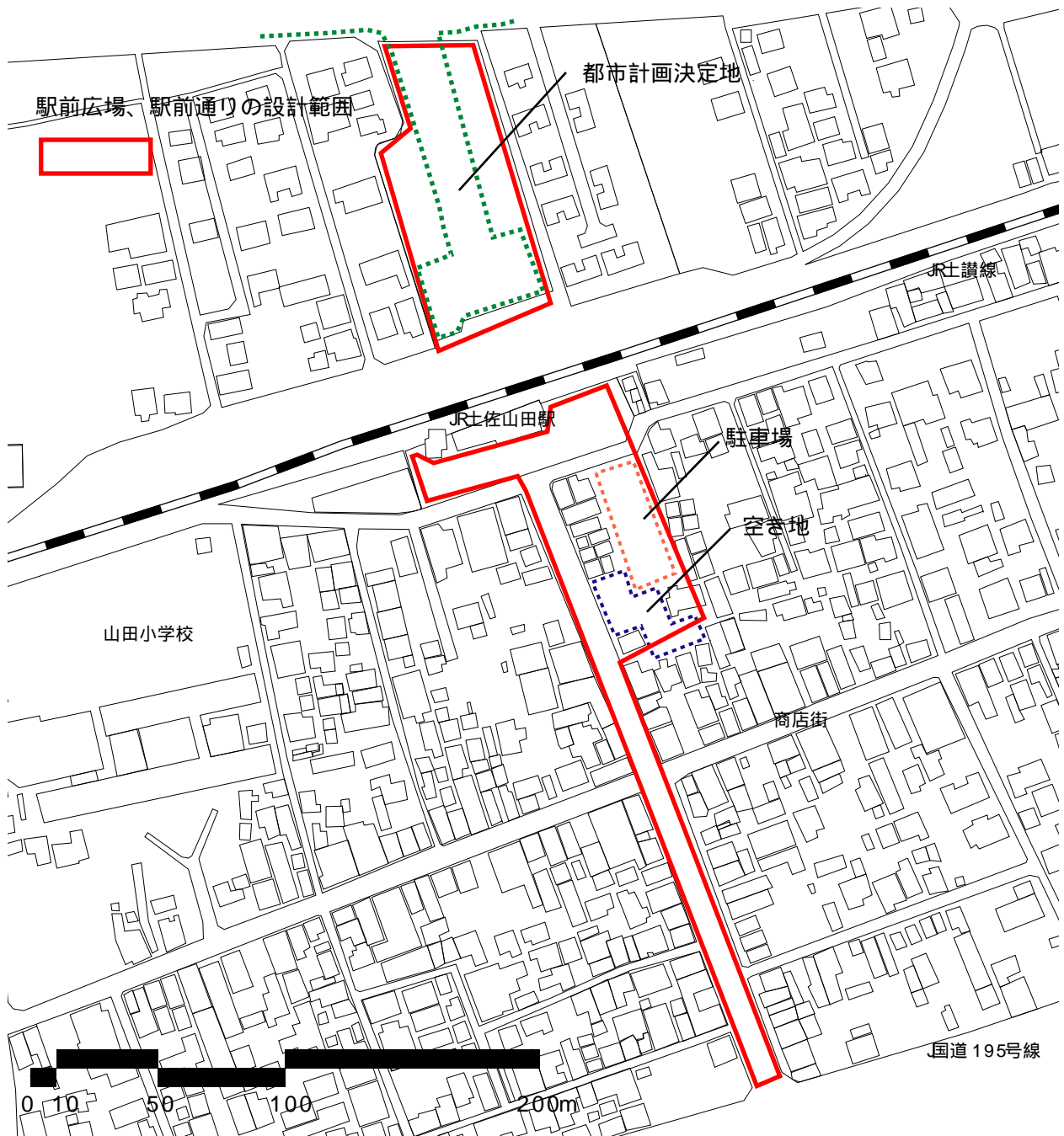


図7-2-1 駅前広場及び、駅前通りの設計範囲



高知山田線

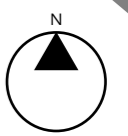
JR土佐山田駅

駐車場

駐車場

土佐山田小学校

国道195号



1:2,000

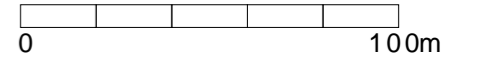


図7-2-2 全体平面図

## 南駅前広場

南駅前広場では、オープンスペースを多くとり、イベントが行えるスペースを確保する。バスやタクシーがスムーズに回転できるようにする。駅前広場の周辺には、土佐漆喰や水切り瓦を使った昔ながらの建物を建て、商店街の昔ながらの建物と一体感を持たせる。

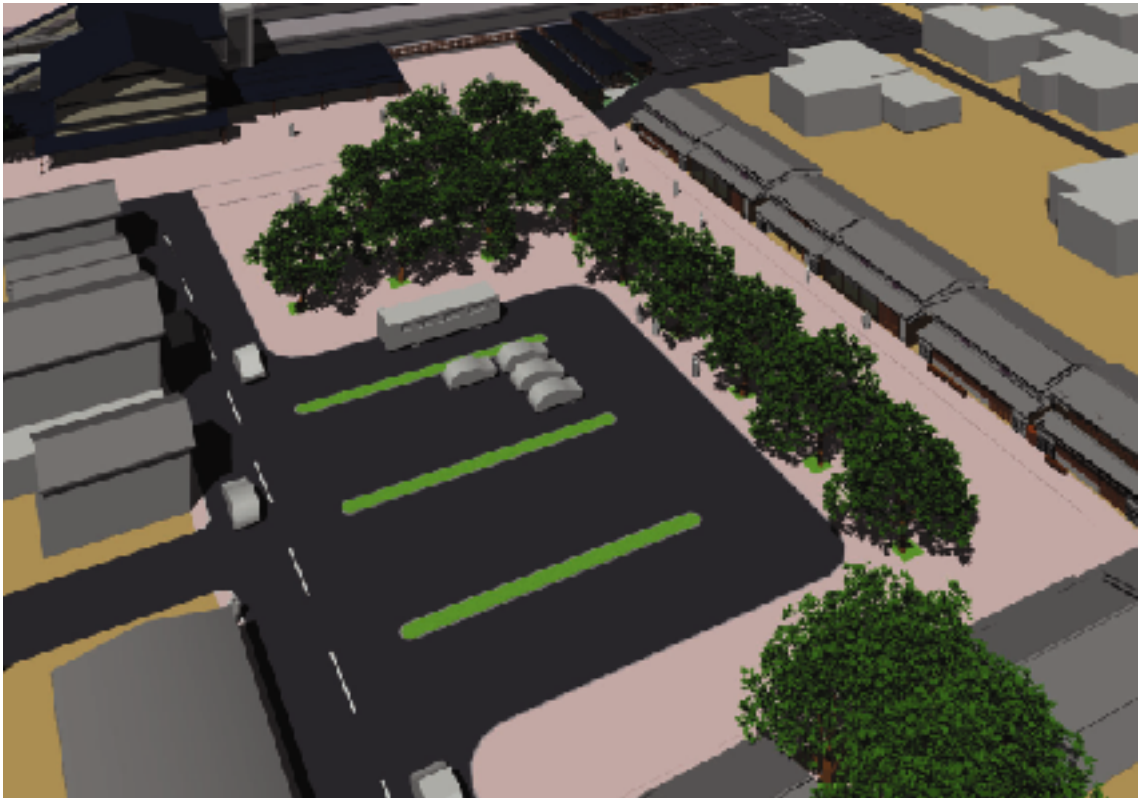


図 7-2-3 南駅前広場鳥瞰図

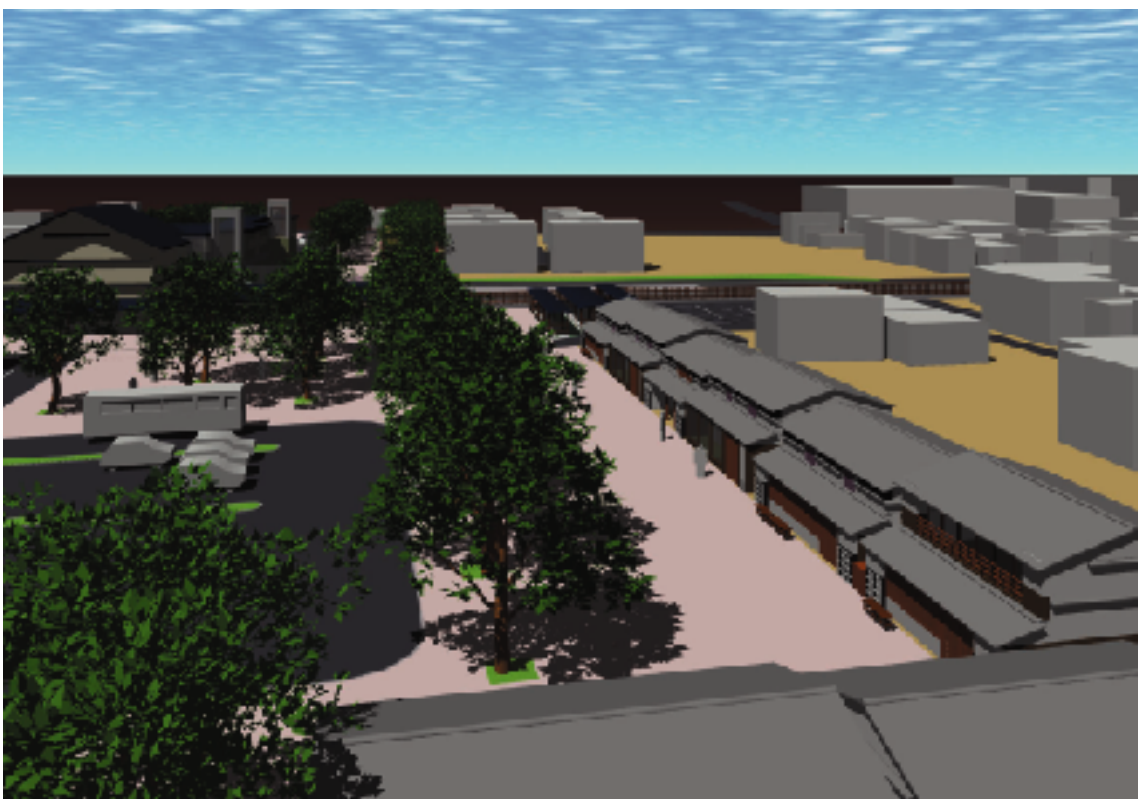


図 7-2-4 南駅前広場パース

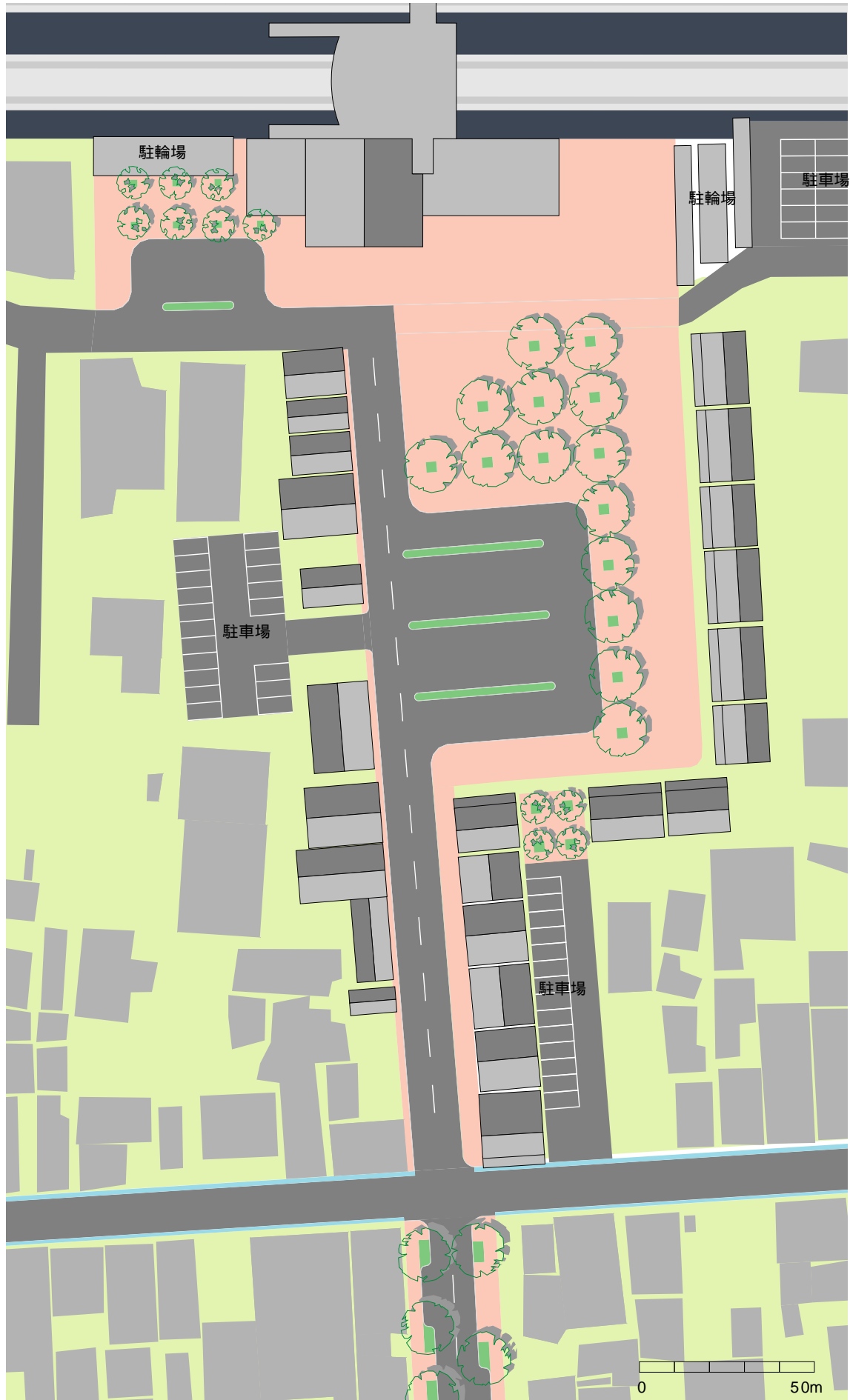


図 7-2-5 駅前広場・駅前通(北側)平面図: 800

動線

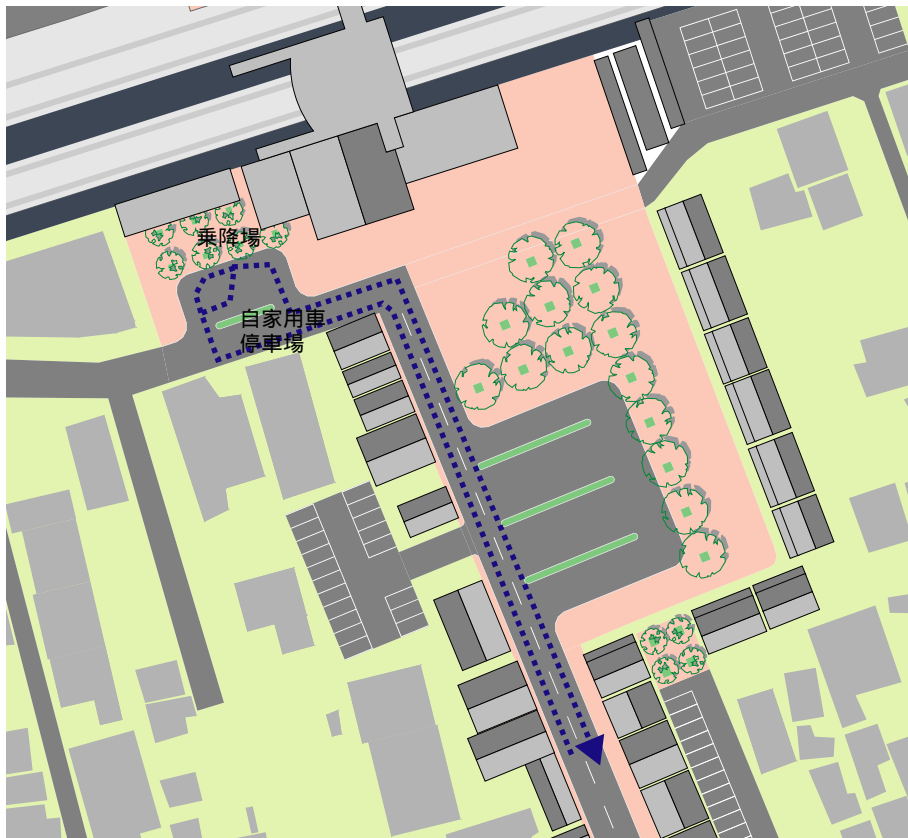


図 7-2-6 自家用車の動線



図 7-2-7 タクシーの動線





図 7-2-8 バスの動線

## 広場の利用(日曜日)



図 7-2-9 南駅前広場鳥瞰図(日曜日)

現在、土佐山田役場の南で行われている日曜市を南駅前広場で行う。駅前広場で行うことによって、日曜市へのアクセスが容易になり、電車からも賑わいが分かるようになる。

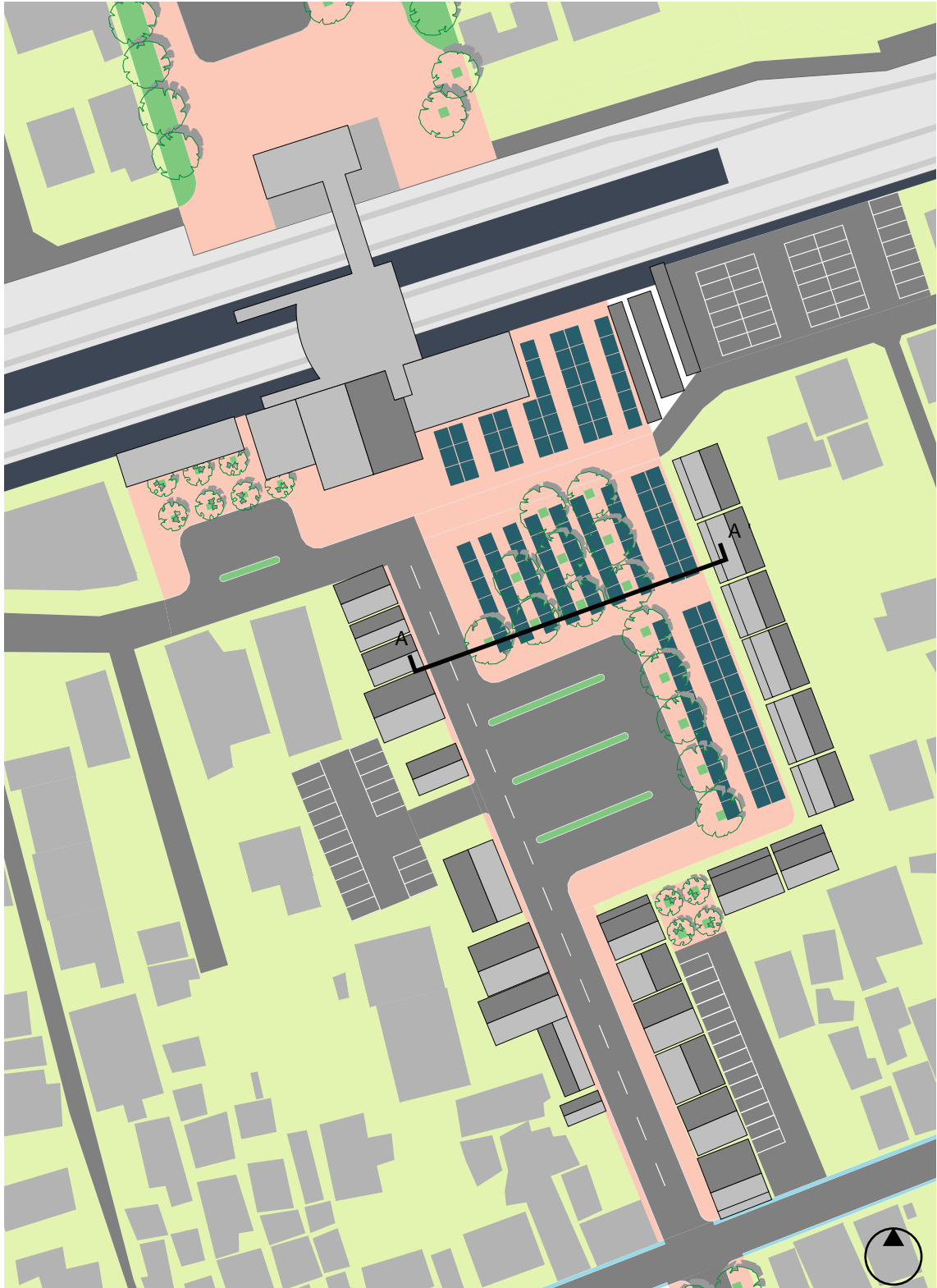


図 7-2-10 日曜市店舗配置図



図 7-2-11 日曜市 A-A 断面図 1: 400

## 広場の利用(山田祭)



図 7-2-12 南駅前広場鳥瞰図(日曜日)

夏に開催されている山田祭を南駅前広場で行う。現在は駅より2kmほど離れた町民グランドで行われているが、駅前広場で開催することにより、町外からの来訪者もアクセスしやすくなる。

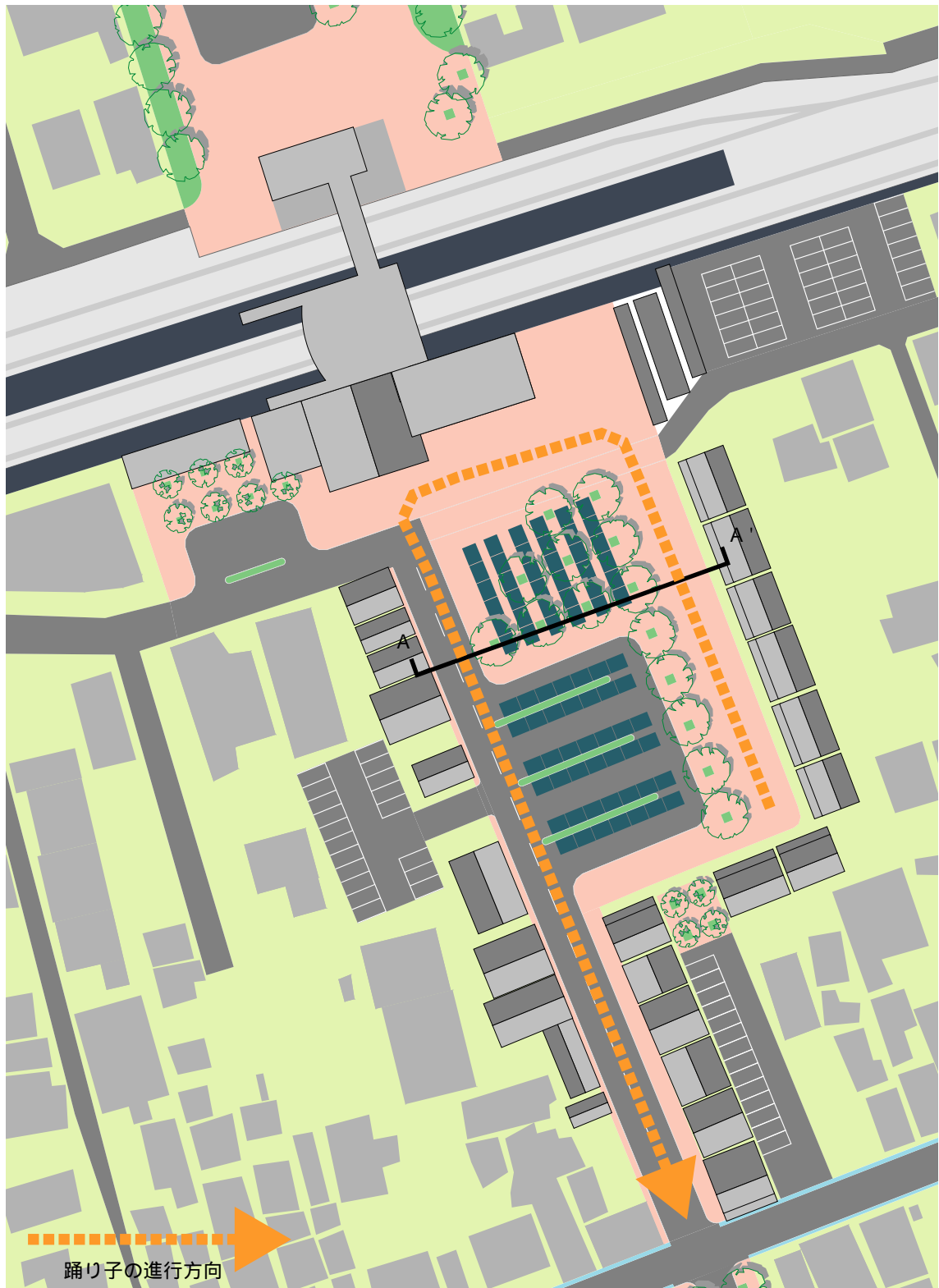


図 2-7-13 山田祭り商店配置図



図 2-7-14 山田祭り A-A 断面図 1: 400

## 駅前通り

駅前通りは、街路樹を植えシンボリックな道となるようにする。街路樹を街路樹と街路樹の間には歩道の幅員が広がる部分と停車帯が交互にくるようにし、歩行空間の充実を図りながら交通の支障をきたさないようにする。



図 7-2-15 駅前通り南端より



図 7-2-16 駅前通り歩道より

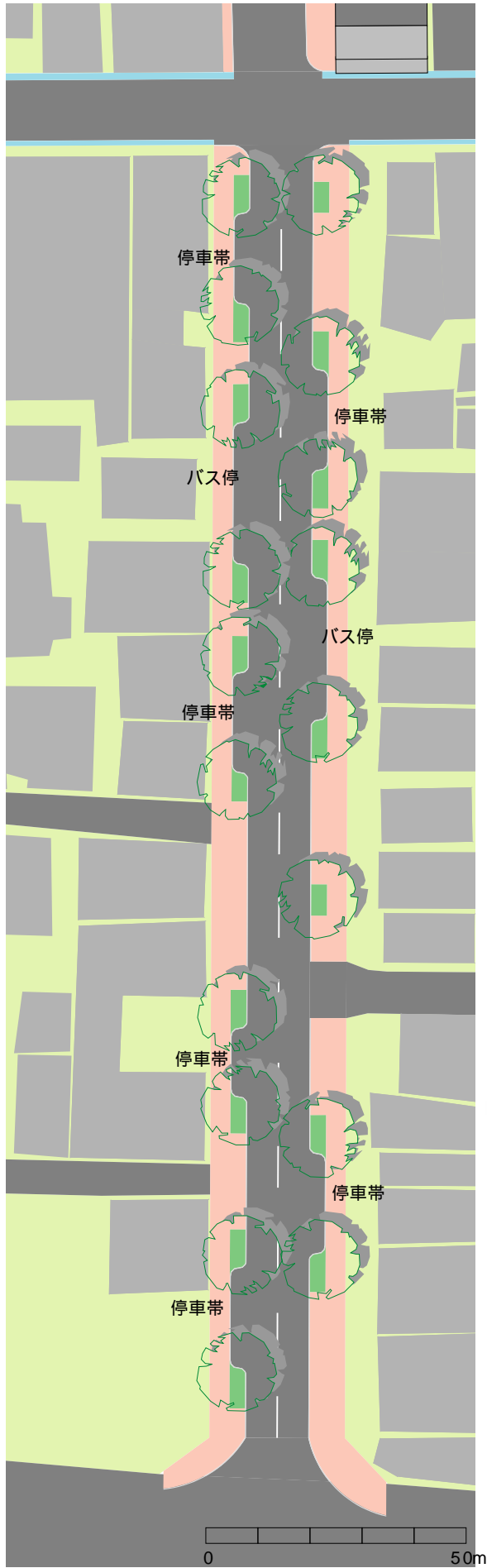


図 7-2-17 駅前通り(南側)平面図: 600

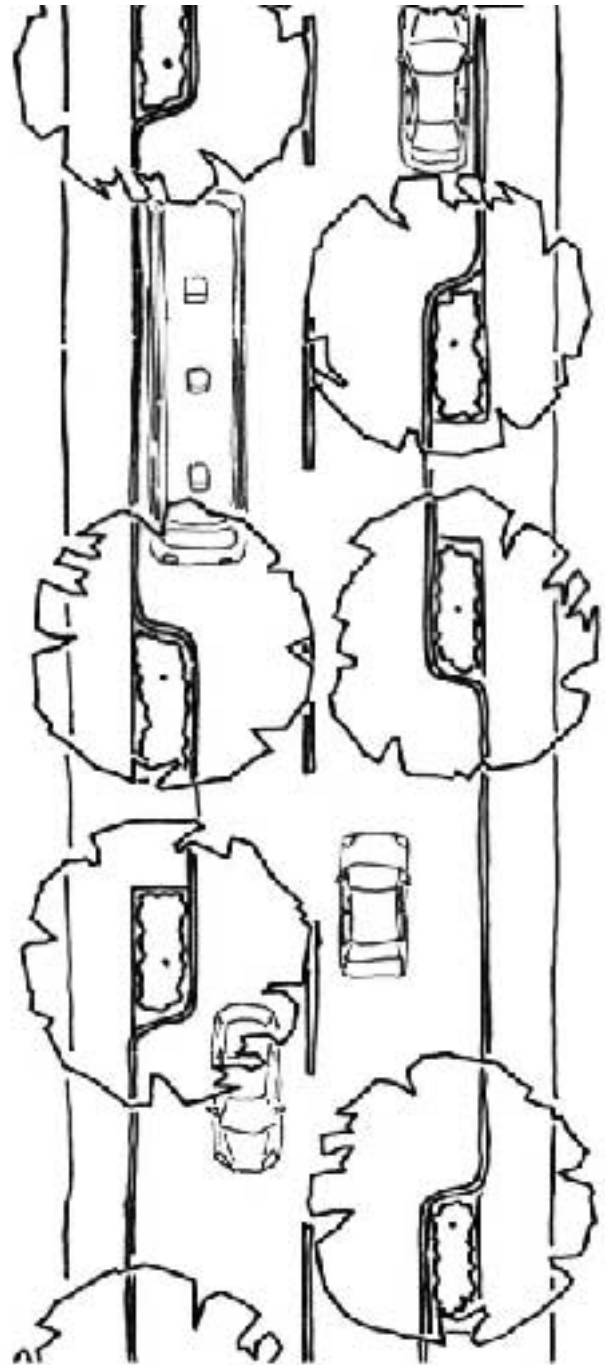


図 7-2-18 駅前通り(南側)詳細平面図: 200

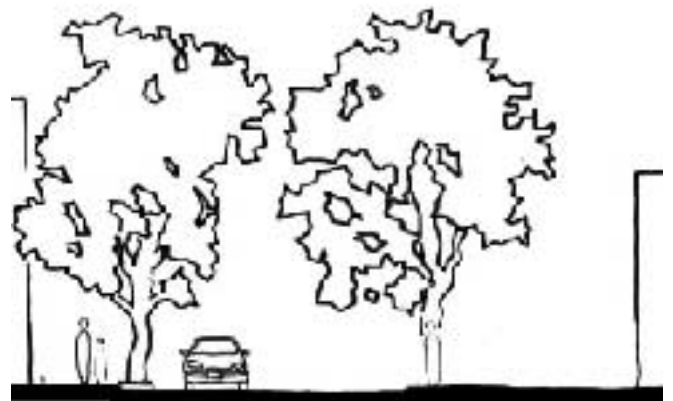


図 7-2-19 駅前通り(南側)断面図: 200

## 7-3 商店街の設計

土佐山田の商店街には、看板建築が多く残っており、その看板建築を取り除く事により古い町並みを再生する。また、蓋がされてしまい存在が希薄となっている水路を再生する、煩雑に配置されている電線は地中化する事によって、景観をよくする。また商店街に面している空き地等はポケットパークとして整備等を行う。こうする事によって、人々が快適に過ごせるようにする。



図 7-3-1 商店街の現況



図 7-3-2 商店街の改修例



改修後の立面図

看板建築の看板を取り除いたときに立面図を示す。



図 7-3-3 商店街の改修例（立面図）

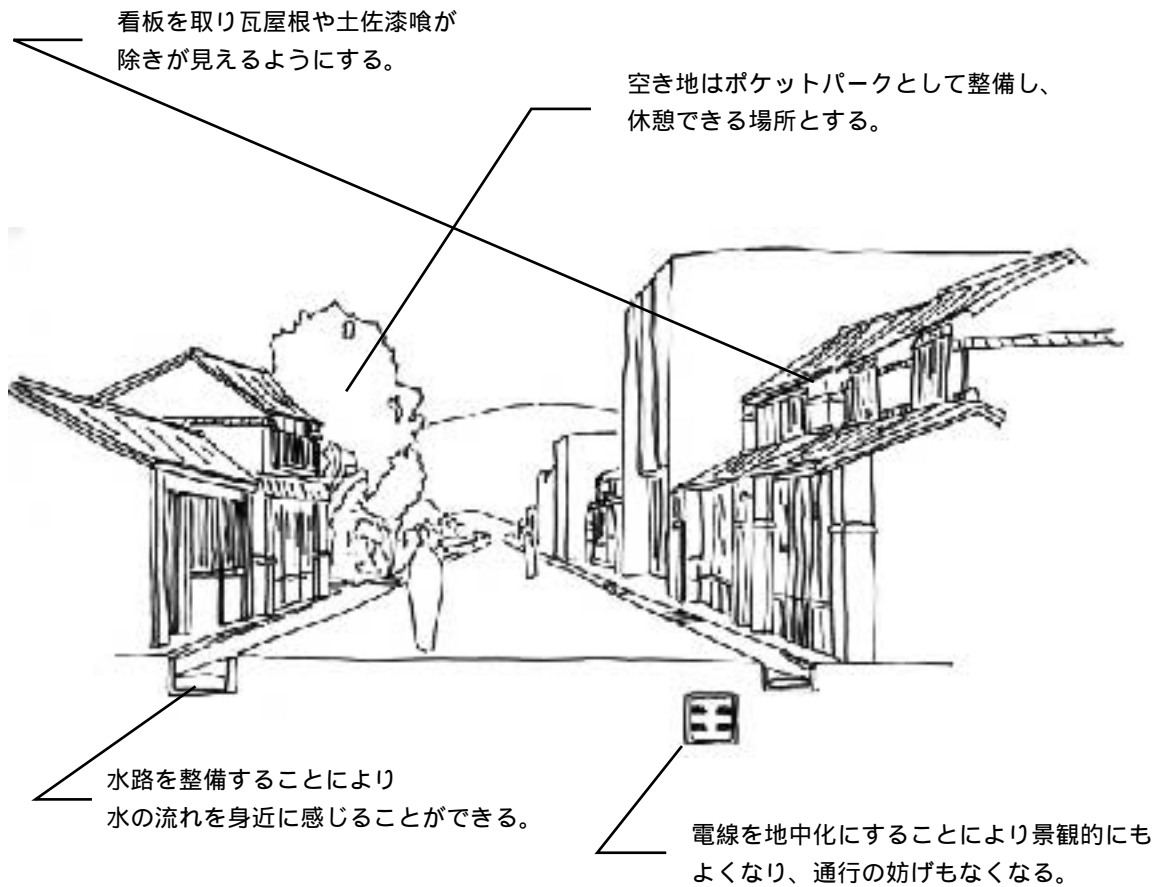


図 7-3-4 商店街の断面パース

## 8 見積もり

今回の設計を現実に行う際の費用(直接工事費)を以下に示す。

## 駅舎

- ・橋上駅

南駅前広場 = 1,800,000千円

・土地	3,400 m <sup>2</sup> ×	190千円 / m <sup>2</sup>	=	646,000千円
・舗装	3,279 m <sup>2</sup> ×	30千円 / m <sup>2</sup>	=	98,359千円
・樹木	26 本 ×	50千円 / 本	=	1,300千円
・照明	20 灯 ×	1,000千円 / 灯	=	20,000千円
・電線地下埋設	0.1 km ×	300,000千円 / km	=	30,000千円

合計 795,659千円

## 南駅前通り

・舗装	917 m <sup>2</sup> ×	30千円 / m <sup>2</sup>	=	27,522千円
・樹木	18 本 ×	50千円 / 本	=	900千円
・照明	40 灯 ×	1,000千円 / 灯	=	40,000千円
・電線地下埋設	0.2 km ×	300,000千円 / km	=	60,000千円

合計 128,422千円

## 北駅前広場

・土地	6,000 m <sup>2</sup> ×	70千円 / m <sup>2</sup>	=	420,000千円
・舗装	3,150 m <sup>2</sup> ×	30千円 / m <sup>2</sup>	=	94,528千円
・樹木	34 本 ×	50千円 / 本	=	1,700千円
・照明	40 灯 ×	1,000千円 / 灯	=	40,000千円
・電線地下埋設	0.2 km ×	300,000千円 / km	=	60,000千円

合計 616,228千円

## 商店街

・看板建築の補修	87 件 ×	3,000千円 / 件	=	261,000千円
・水路	2,000 m ×	150千円 / m	=	300,000千円
・舗装	6,000 m <sup>2</sup> ×	30千円 / m <sup>2</sup>	=	180,000千円
・照明	200 灯 ×	1,000千円 / 灯	=	200,000千円
・電線地下埋設	1 km ×	300,000千円 / km	=	300,000千円

合計 1,241,000千円

総合計 4,581,310千円

## 9まとめ

本修士設計は、衰退が進んでいる土佐山田商店街と、土佐山田町の玄関口であるにも関わらず、賑わいをみせない土佐山田駅を景観の観点から活性化をアプローチしたものである。

今回の設計では、土佐山田に多く残っている古い建物や、現在は使用されていない井戸などを利用することによって、昔の町並みを再生し、商店街の活性化へのきっかけをとるようにと行った。しかし、現実には、古い建物は壊され、活性化を謳って新しいモノが建てられている。都市計画においても、駅前を一掃して新しく巨大な商業施設を建てるという計画がある。

このような事は、全国の商店街でも行われているが、成功した事例は少なく、ほとんどの場合が失敗に終わっている。新しいモノだけを建てて活性化を目指すだけでなく、古いモノを再生する事によっても活性化を行ってほしい。

また、本修士設計では設計範囲を駅空間及び商店街としが、古い建物や水路、拠点となるような場所は、周辺にも多くある。今回は、周辺地区までを設計するには至らなかったが、周辺地区一体を整備する事により、商店街だけでなく、小路や裏通りなど地区全体において、古い町並みが再生される。そして、古い町並みが再生されることによって、商店街の活性化に大きく貢献できるはずである。

### 10 おわりに

今回の修士設計をまとめるにあたって、ご指導ご協力をいただいた方々に心から感謝の意を表します。

重山先生には、学部4年生の頃から熱心なご指導を賜りました。そのおかげで今回の修士設計に挑戦し、まとめることが出来ました。厚く御礼申し上げます。

草柳先生、吉田先生をはじめとして貴重なご助言、ご意見を賜りました社会システム工学コースの諸先生方に、深く感謝の意を表します。

本修士設計においての資料の収集、調査に当たり、土佐山田町都市計画課の中山氏、JR四国の松木氏、商工会のみなさまにご協力を頂きました。心より感謝いたします。

また、この1年間共に修士設計を行いながら励まし合った修士二年のみなさん、本作品中の資料作成ご協力いただいた学部4年生、3年生のみなさんに感謝いたします。

## 参考資料

改訂版 土佐山田の文化財

土佐山田町文化財保護審議会 1998/03/31 土佐山田町教育委員会  
緑の田園商工都市構想

土佐山田町 1997/03

多自然・定住文化都市構想 - 第四次土佐山田町振興計画

土佐山田町 2002/04

土佐山田駅南地区土地地区画整理事業（A調査）報告書

高知県土佐山田町 1994/02

土佐山田駅北地区土地地区画整理事業B調査概要報告書

高知県土佐山田町 1995/03

## 参考文献

月刊商店建築 5月号 増刊 中心街元気マニュアル

村上末吉 2000/03/31 株式会社商店建築社

建築設計資料 64地域の駅 - 新しい駅文化の創造 -

建築思潮研究所 1998/01/01 建築資料研究社

街を内包する駅・空港

岡並木 1992/07/31 地域科学研究会

歴史の町並み200選 - 訪ねてみたいむかし町、懐かし町

青野眞也 1989/08/31 JTB日本交通公社出版事務局

歴史のまちのみちづくり

歴みち研究会 1997/11/15 財団法人日本交通計画協会

日本の町なみデザイン

増田史男 1998/11/25 株式会社グラフィック社

建築雑誌 増刊 作品選集2002

日本建築学会 2002/03/18